平成２３年度

年　　報

市立大町山岳博物館

目　　次

平成23年度の活動から…… 1

Ⅰ　創立60周年事業

1. 記念式典…… 2
2. 記念番組制作…… 2
3. 山博のこれからを考える会…… 2
   (1)第1回懇話会
   (2)第2回懇話会
   (3)第3回懇話会
   (4)第4回懇話会
4. 使命書の作成…… 3
   (1)市立大町山岳博物館創立60周年を機に
   (2)平成24年度からの市立大町山岳博物館の基本理念
   (3) 平成24年度からの山岳博物館の基本方針
5. 山岳図書資料館の建設と資料整理 …… 6
   (1)山岳図書資料館の設計
   (2) 山岳図書資料館の建設
   (3) 山岳図書資料の整理
6. 展示改修 …… 7

Ⅱ　資料収集・保存管理事業

1. 資料収集…… 9
   (1) 新規収集資料
2. 資料保存管理…… 9
   (1) 収蔵資料
   (2) 収蔵図書

Ⅲ　調査研究事業

1. 調査研究…… 11
   (1) 安曇地方の湿地植物における生活史の研究
   (2) 爺ヶ岳におけるライチョウ生息域内の山岳気象観測
   (3)　山岳文化創出業務
2. 共同研究及び調査研究の協力…… 11
   (1)コア・サイエンス・ティーチャー養成

Ⅳ　教育普及事業

1. 展示…… 12
   (1) 常設展示
   (2) 企画展示
   (3) 新着資料展示
   (4) 移動展示
2. 教育普及活動 …… 16
   (1) 学習会等の開催
   (2) 学校との連携、融合
   (3) 学芸員実習の受入
   (4) 各種観察会・学習会の共催・協力
   (5) テレビ・ラジオへの出演
   (6) 収蔵資料などの貸出
3. 執筆・出版…… 22
   (1) 執筆
   (2) 出版
4. 広報…… 24
   (1) インターネット・公式ウェブサイト
   (2) インターネット・外部ウェブサイト
   (3) 大町博物館連絡会発行博物館めぐり案内図
5. 友の会…… 24
   (1) 組織
   (2) 運営部
   (3) 編集部
   (4) 喫茶「こまくさ」の営業
   (5) サークル活動
6. ライチョウ会議…… 26
   (1) ライチョウ会議
   (2) 第12回ライチョウ会議長野大会
7. ボランティア活動…… 27

Ⅴ　動植物飼育栽培繁殖事業

1. 動物飼育繁殖…… 28
   (1) 希少野生動物繁殖
   (2) アルペン動物園交換動物
   (3) 傷病鳥獣救護
2. 植物栽培繁殖…… 29
   (1) 栽培植物

Ⅵ　その他

1. 各種委員などの委嘱…… 30
2. アルペン動物園との友好提携協定の締結…… 30
3. 信州大学山岳科学総合研究所との研究協力協定の締結…… 30

Ⅶ　運営

1. 組織および職員構成…… 31
2. 協議会…… 31
3. 入館者状況…… 32
4. 平成23年度予算・決算…… 34

Ⅷ　関係条例・規則等

1. 市立大町山岳博物館条例…… 35

2. 市立大町山岳博物館規則・・・・・・・・・・・・・・ 37
3. 大町市ライチョウ保護事業計画策定
委員会設置要綱・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
Ⅸ 施設
1. 敷地面積・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
2. 本館建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
3. 付属施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
4. 本館平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
5. 付属の建物図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
Ⅹ 利用案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

平成 23 年度の活動から

館 長　宮野 典夫

市立大町山岳博物館は、昭和 26 年 11 月 1 日に創立し、市民の皆様から「さんぱく」と呼ばれ、親しまれてきました。今日まで山岳博物館を支え、育んでいただいた多くの皆様方に対しまして、深くお礼申しあげます。

皆様方のご支援とご協力により、山岳博物館はこの 60 年の間に、大町市の地域特性を活かした調査や研究、資料の収集を積極的に進め、展示や教育普及の面でも、数多くの活動を進めてきました。

平成 23 年度は創立 60 周年を記念したいくつかの事業を実施いたしました。

11 月 3 日には記念式典を挙行し、東京学芸大学の君塚仁彦教授に「大町山岳博物館の過去・現在・未来」と題して記念講演をしていただきました。式典に先立ち 10 月 29 日には山岳博物館創立 60 周年記念番組「北アルプスの自然と文化をみつめて　そして未来へ～大町山岳博物館の 60 年～」を民間の放送局より放送し、多くの方に山岳博物館の存在と意義を知っていただけました。

企画展では「山岳（やま）を科学する２０１１　その最前線」と題して信州大学の最新の研究成果を広く紹介し、関連する講演会にも数多くの来場者で賑わい、盛会に終了することができました。この企画展を通し、多くの方々の知的な欲求を満たし、山の持つ不思議さを感じ取っていただけたものと思います。また、「湿地植物の生活史研究グループ」では市民と学芸員との協働により調査を進め、その研究成果を企画展「くさばなの一生　湿原で見られる植物の生活史　～その営みとなぞにせまる！～」の展示に反映させ、植物のボタニカルアート（細密画）による技法により展開し、展示解説書は企画展開催中に用意した部数が完売となるほどの好評を得ました。「第 2 回山岳公募写真展　北アルプス　- 美の探究 - 」は大町市の「山岳文化都市宣言」10 周年も合わせて記念した企画展であり、公募により寄せられた 200 点あまりの作品の中から選りすぐりの作品を展示いたしました。

今年は長野県山岳協会創立 50 周年の年にも当たり、同協会からは貴重な山岳図書書類と多額のご寄附のご提供いただき、「山岳図書資料館」を建設し、資料を納めることができました。これからも登山に関する図書類の資料の発掘と収集、保管、公開を進めてまいります。

創立 60 周年を機に、これからの山岳博物館のあるべき姿を考えなくてはなりません。昭和 24 年の設立趣旨は今日の社会でも充分通用する内容であり、この精神を引き継ぐことが大切かと思います。また、山岳博物館創立 50 周年をきっかけに、21 世紀にふさわしい山岳文化の発展と創造をめざすために大町市は「山岳文化都市宣言」を行いました。この 2 件がこれからの山岳博物館のミッションを築き上げるのに重要なことだと思います。創立 61 年目からの山岳博物館の基本理念、基本方針を皆様にお示しし、市民の皆様とともに活動する、市民の皆様のための博物館にしてまいります。

末尾となりましたが、当館の事業を推進するにあたり、多くの方々にお世話になりました。お礼申し上げます。

Ⅰ　創立 60 周年事業

本年度、山岳博物館が創立 60 周年を迎えるにあたり、様々な事業を展開したが、企画展などの記念事業はそれぞれの項で報告し、ここでは総括的な面からの事業を述べる。

1．記念式典

(1)日　時：平成 23 年 11 月 3 日（木）午後 1 時 30～3 時 40 分
(2)会　場：ＪＡホール　アプロード
(3)参列者：信州大学学長、長野県県議会議員ほか約 160 人
(4)記念講演会
①演者：君塚仁彦（東京学芸大学　教授）
②演題：「大町山岳博物館の過去・現在・未来」
③内容：山岳博物館に対する学術的評価として、地域の青年を中心に公民館を核とした社会教育活動としての博物館設立。地方の個性的な自然史博物館としてカモシカ・ライチョウの飼育。日本唯一の総合的な山岳博物館として山岳文化を取り扱うパイオニア的存在。山岳博物館を中核に街づくりやエコミュージアム的思想や観光事業の側面を含めての発信があげられる。
地域で運営されている公立博物館の役割や存在意義が明らかにするには、博物館の教育活動が大切である。
　公立博物館をめぐる厳しい状況として、東日本大震災で失われた地域の記憶の継承や、文化創造が課題である。また、選択と集中が行政改革に及び、公立博物館を選択しない事例が増え、博物館冬の時代を越えて氷河期となっている。
山岳博物館から学ぶ公立博物館の底力、期待するものとして、博物館の学術的な機能である調査研究を固めたうえで、教育のみならず、観光への視点も盛り込みながら展開し、人の学びや成長を支えることであり、そのことを地域の中で再認識することである。

2．記念番組制作

(1)タイトル：山岳博物館創立 60 周年記念番組「北アルプスの自然と文化をみつめて　そして未来へ～大町山岳博物館の 60 年～」
(2)放送：平成 23 年 10 月 29 日（土）午後 3 時～3 時 54 分　ＳＢＣ信越放送
(3)内容：博物館の歴史、博物館の活動（山岳の自然と文化の魅力を伝える・付属園と市民との関わり）、大町市の活動、友の会の活動、未来への提言などの構成で番組を制作、放映し、創立 60 周年の節目の年を迎え、今後も地域とともに歩む博物館を目指し活動を続けていきたいというメッセージを伝えた。

3．山岳博物館のこれからを考える会

博物館の使命書及び具体的な事業を計画するにあたり、パブリックコメントを得る目的で、市民に意見や提言を述べていただく機会を設けた。人選に当たっては公募し、21 人の応募があった。平成 22 年 3 月から開始しているが、ここに一括して報告する。

(1)第 1 回懇話会
①開催日：平成 23 年 3 月 25 日（金）
②参加者数：15 名
③内容：「私にとって、地域にとって、山岳博物館とはどのような存在か。また、山岳博物館の役割とは」をテーマとし、出席者の自由な視点から博物館に対する意見や要望を述べていただいた。

(2)第 2 回懇話会
①開催日：5 月 10 日(火)
②参加者数：12 人
③内容：「山岳博物館における展示活動について」をテーマとし、次回展示改修の概要についての説明後、２班に分かれて各階の展示室を見学しながら懇話し、その後、各班の意見や感想についてまとめの発表をした。

(3)第 3 回懇話会
①開催日：6 月 12 日(日)
②参加者数：21 人
③内容：「付属園における飼育展示などについて」をテーマとし、２班に分かれて付属園を見学しながら懇話し、その後、各班の意見や感想についてまとめの発表をした。
(4)第 4 回懇話会
①開催日：7 月 9 日(土)
②参加者数：15 人
③内容：第 1 回から 3 回までの懇話会で出された他の参加者の意見を聞いての感想、今までの懇話会のテーマに挙げられなかった事項についての意見や補足意見などを出していただいた。この会で提案された事項については、館で検討整理し、今後の事業計画へ反映されることとなった。

4. 使命書の作成

(1)市立大町山岳博物館創立 60 周年を機に

市立大町山岳博物館は、昭和 26 年 11 月 1 日に創立し、今年で 60 周年を迎えた。昭和 24 年の設立趣旨には「地方文化の興隆」「信州文化の粋たる山岳文化の殿堂」「中部山岳国立公園の施設」「山岳の観光案内所としての博物館」「山岳博物館の立地条件を充たす大町」があげられており、当時の地域住民の博物館建設へ寄せた熱意と献身的な活動により山岳博物館が誕生した。

大町市は、山岳博物館創立 50 周年（平成 13 年）をきっかけに、21 世紀にふさわしい山岳文化の発展と創造をめざすべく「山岳文化都市宣言」を行った。

山岳博物館を誕生させた母なる北アルプスの雄大な姿は、将来、社会情勢がいかに変化し、科学技術が進歩しようとも、今と変わらず大町市民にとって常に身近な存在であり続けるであろう。

私たちは創立 60 周年を機に、あらためて設立当初の精神に立ち返り、「山岳文化都市宣言」の基本的理念を尊重しながら、これからの山岳博物館のあるべき姿を考えていく。

参考　大町山岳博物館設立趣旨(昭和 24 年 4 月 3 日　羽田健三　筆)

1. 地方文化の興隆のため

全ての人が人になる日本民主化は、高度の文化性をお互いが把握するとき始めて成就されます。然るに現実は東京の文化施設すら欧米では小さな町の程度だと申されますから地方の文化施設等全く問題にならないのであります。地方は文化面に於いても未だ中央集権的悪弊がぬぐい切れないため総ての文化を都会に隷属して極めて非文化的であり、自主性がなく、その上有為の人々はかかる殺伐とした地方を見捨てて都会に走るので、地方は全く救われ難い状態です。日本人一人一人自らの魂を持して自律的に行動し自分に自信を持つことが日本民主化の達成であります。然るに都会人はいざ知らず大部分の地方人は自らの魂を持たず他律的、附和雷同的であり、その上自らを卑下しておるのであります。

この現況を打破するには地方文化の興隆以外に道はないのであります。即ち夫々の地方独特の文化を開発することによって地方人が自らの環境として文化がどこにも劣らぬものとして理解し、之にほこりを感じ従って自分自身にも自信を持ち、自律的、民主的になることが出来て来るのであります。即ち地方の固有の文化を開発してこそ始めて日本全体としての文化の興隆となり、日本民主化が完成されるのであります。

2. 信州文化の粋たる山岳文化の殿堂

斯かる見地より信州に於いての固有の文化は何かと申しますと、一つには山岳文化がなければなりません。信州は吾が国で最もすぐれた自然を持っています。然もその自然の精華は雄大なる山岳に存在しているのであります。

従ってこの自然環境に育まれた文化は当然山岳文化でなければなりません. 然るに残念ながら此の分野に於いては、信州人は自覚的に之を開発しようとせず、ただ散発的なものが見られるに過ぎないのであります。ここに吾等の主唱する山岳博物館を設立する意義が存するのであります。山岳文化を育成し、又すでに存在するものを一堂に集めて信州文化の粋としたいのであります。

3. 中部山岳国立公園の施設として

当局はつとにこの地方の山岳の美を認めて国立公園に指定しました。然るに此の広大なる地域に名のみを与えたのであって国立公園としての実なく、全然一般の人々に直接する公園としての施設がありません。この山岳地帯は余りにも雄大蒙壮であって素材のままでは余程のエキスパートでなければ之を理解し観賞する訳には参りません。即ちここに欧米には極めて普通に見られる山岳博物館を日本にも建設して老幼婦女子の別なく山岳の精髄に触れさせる手段を講ずることは、当局の責任でもあり地元の熱望に率先協力されたいと望むものであります。

4. 山岳の観光案内所としての山岳博物館

近年山岳愛好家が年々激増して入信して参ります。然しながら此等の人々の中より毎年数十名の死傷者を見て居ります。然るに此等の遭難を防止する方法の研究とか、具体的な施策とかが皆無であります。これは地元の責任でありまして、一つの山で一人の遭難者を出すと、一万人の登山者を減らすと云われる程であって速やかに方途を講ぜねばなりません。

この山岳の案内所としての中核体に山岳博物館を創設して継続的にこの種の研究やら施策をして行く可きであります。

5. 山岳博物館の立地条件を充たす大町

東京の各種博物館には地方の貴重なる資料が集められています。然しながら之を見る人はその資料を産した地方の環境がはっきり理解出来ぬので本当にその資料の価値を理解する訳には参りません。一方地方ではこのような資料が存在することや、又かつて存在したと云うことは夢にも知らず、この地方は無味乾燥した何の価値もない所だと卑下していることが多いのであります。このような弊は地方の各種の文化財をその地方に集める博物館を創設することによって改めることが出来るのであります。斯かる見地より中部山岳地帯の山岳の精髄を集める山岳博物館の建設地は北アルプスの懐にある山の都大町以外には考えられないのであります。大町は四囲に後立山連峰をめぐらし、朝な夕なの山岳の美は神々しいばかりであります。然も北は白馬岳への登山客を迎え、又針の木を越えて富山にぬける要衝に当り南は高瀬渓谷により北アルプスの雄槍ヶ岳へ最短時間に登ることが出来ます。島々を経て上高地に遊んだ人々は必ず槍に出ますが、近年その人々は槍より三又蓮華、烏帽子を縦走して高瀬渓谷に降り必ず大町を経て関東、関西に帰っています。世の中の落着くと共に山岳愛好家は本当に山らしい深山幽谷を探ります。未だ処女地とも云える自然と豊富な温泉を持つ高瀬渓谷を中心としたこの地方の山岳への人盛りは大変なものでありますので、大町に山岳博物館を作ることは時宜を得た処理として万人が認めるところであります。

参考　山岳文化都市宣言（平成 14 年 3 月 15 日）

今から 50 年前、戦後間もない混乱期に、地元の青年たちは、文化、それも地方から発信する独自の地域文化の創造を求めて運動を行い、山岳博物館の創設を果たしました。

半世紀たった今日、時代の移り変わりとともに、山岳博物館や大町市の果たすべき役割もあらためて問われています。市立山岳博物館開館 50 周年を機に、先人たちが唱えた、地域文化の集約と発信という原点に再度立ち返りながら、新しい価値観に基づく山岳文化の創造をめざして、次のように山岳文化都市宣言を行います。

山　岳　文　化　都　市　宣　言

私たちの大町市は、雄大な北アルプスのパノラマを代表とする、四季折々の変化に富んだ豊かで美しい大自然に恵まれています。

北アルプスの山麓で生まれ、育ってきた市民は、その長い歴史を通じて、山岳がもたらす豊かな自然環境の恵みを受けながら、自然と人とが共生する独自の山岳文化を形成してきました。

私たちは、先人たちが守り育ててきた山岳文化を受け継ぎ、かけがえのない豊かで美しい自然を次の世代に伝えていかなければなりません。

21 世紀を迎えた今日、身近な生活環境の改善から地球環境の保全まで、様々な環境問題への取り組みが重視される中で、本市においても、市民、事業者、行政等が協働と連携を図りながら、新しい時代の課題や要求に応える山岳文化の振興が求められています。

本市における山岳文化の拠点である山岳博物館開館 50 周年の節目にあたり、山岳博物館創設当時の理念に学びながら、「環境の世紀」と言われる 21 世紀にふさわしい山岳文化の発展と創造をめざして、大町市を自然と人とが共生する「山岳文化都市」とすることを宣言します。

(2) 平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本理念

市立大町山岳博物館の存在意義や社会に対する使命（責務）は次のとおりである。

大町市は、「美しく豊かな自然文化の風薫る　きらり輝くおおまち」をめざし、市民あるいは市内を訪れる方などのために、生涯学習の支援と推進や社会教育の充実と活性化を進めている。

これを達成するために、市立大町山岳博物館（以下、山岳博物館）は、「自然と人とが共生する「山岳文化都市」の形成につながるあらゆる活動を充実させ、地域の博物館としての機能の充実を図る。その核となる活動は、北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する調査研究を基礎として、それに関わる資料の収集・整理、保存・管理することであり、これらを活用した次のような教育普及活動を推進することである。

①　大町市や周辺地域の人たちのために

a. 郷土の自然や文化を見つめ直し、この地域ではこれまでどんなことがあったのか、今どうなっているのかを知り、これから将来はどうなるのかを考える場所を提供する。

b. この地域にどのような価値があるかを知っていただき、郷土に誇りを持つことができる機会や場所

を提供する。
c. 郷土の自然と文化に接し、心の豊かさを感じ、学ぶことの楽しさや大切さを味わって活動し、それを表現できるような機会や場所を用意する。
d. 豊かな自然環境を護り、自然と共存することの大切さを理解できるような場所や機会を提供する。
e. 博物館を中心にして、動植物園、遊歩道、園地、売店などいろいろな施設を充実させ、ここがゆっくりとくつろげて、楽しめる場所であるという考え方を大切にする。

②大町市を訪れる人たちや北アルプスとその山麓地域の自然と文化を知りたい人たちのために

a. 観光客･登山者をはじめ北アルプスとその山麓地域の自然と文化について､関心を持つすべての人々の学習のきっかけをつくる手助けをする。
b. 「山岳文化都市」づくりの中核を担う施設として、北アルプス周辺のフィールドへといざなう窓口となる。
c. 大町市をはじめ、県内外にひろく「自然と人とが共生する山岳文化」の情報を発信し、さらなる山岳文化の創造を進める。

(3) 平成 24 年度からの山岳博物館の基本方針

①調査研究の推進

博物館の立地条件を生かし、学術研究や社会教育機関としての機能を高めるため、国・県や各種研究機関と連携した調査や研究を推進する。

a. 調査・研究の分野・範囲

北アルプスを中心とした山麓から高山までの地域と、それに関連した人文・自然科学分野の調査研究に重点をおく。

b. 情報収集

調査・研究のため、また利用者のさまざまな要求に応え、多くの人に資料や情報を利用していただけるように、国内外から多くの情報を集める。

c. 体制づくり

国や地方自治体、大学などの各種研究機関や市民と連携した調査研究を進める。

② 資料の収集・整理、保管の推進

北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する情報発信の核となるよう、また、教育普及活動に活用できるよう、博物館で取り扱うことがらを定めて、それに沿った資料・情報の収集・整理、保管を推進する。

a. 収集・整理の推進

早急に記録にとどめ、保存が必要と考えられる資料を最優先に収集し、記録、整理をおこない、山岳博物館における情報発信の核とする。

b. 収集の範囲

山岳、特に北アルプスを中心とした山麓周辺から高山までの地域とそれらに関連した海外の人文・自然科学分野に関する資料（有形・無形を含めた事物や事象）の収集をおこなう。

c. 保存・管理の推進

収集された資料は適正に管理された環境おいて保管され、品質の劣化を防ぎ、将来の資産とする。

③ 調査研究の成果および収集資料の活用

調査・研究の成果や博物館の資料を十分に活かした活動を進める。

a. 調査・研究の成果活用

調査研究の成果を常設展示や企画展示に反映させ、各種の教育普及活動に有効活用する。

b. 収集・保管の成果活用

収集した資料を対象に調査研究を進めるとともに、展示の基礎資料とし、各種の教育普及活動にも有効活用する。

c. 保護・保全への貢献

調査研究の成果は、地域において学術的・歴史的価値の高いもの、あるいは環境・景観等の保全・保護に役立てる。

d. 体制づくり

山岳の自然と文化に関する各種情報を集め、山岳情報のネットワークをつくる。

④ 教育普及活動の推進

地域の恵まれた自然・文化に関するフィールドや博物館の資料・情報をわかりやすくて興味が持て

るように示す。また、それを通して新しい発見、驚き、関心が得られるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。

a. 生涯教育・社会教育の推進

博物館の資料や、山麓から高山にかけての恵まれたフィールド環境を生かし、子供から大人まで幅広く参加できるような魅力ある活動を展開する。そして、それらの活動が、知的欲求を一時的に充たすだけでなく、生涯にわたって持続できるきっかけづくりになるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。

b. 学社連携・融合の推進

学校と博物館を結んだ事業を積極的におこない、児童・生徒・（先生）の学習の場とし、関心を持つきっかけづくりをする。

c. 協働の推進

国や県をはじめとする大学や研究所・博物館・動植物園など、国内外の機関と連携した活動を展開するとともに、地域の情報を取り入れて市民との協働の活動を推進する。

⑤ 付属園（動植物園）の充実

付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究をしたりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培･飼育し､生きている姿を見てもらうという考え方を大切にする。

a. 生体展示

生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。

b. 教育普及への活用

飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。

c. 傷病鳥獣の救護

傷ついたり病気になった野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。

d. 希少種の保護

希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。

e. 施設整備の充実

付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

5. 山岳図書資料館の建設並びに図書資料の寄贈と整理作業

(1) 経　緯（担当：宮野典夫）

平成 21 年 10 月、長野県山岳協会が平成 23 年度に創立 50 周年（平成 23 年秋に式典開催予定）を迎えるにあたり、記念事業の一環として、貴重な山岳資料の散逸を防ぐため図書等の資料を収集し、大町市に寄贈するとともに、大町市が土地を手配し、山岳博物館隣接地に（仮称）図書資料館建物建設が可能かの相談が持ちかけられた。

これを受けて大町市としても山岳博物館都市宣言を標榜し、山岳資料の収集並びに教育普及活動に有益と考え、加えて同平成 23 年度が博物館創立 60 周年にあたることより、長野県山岳協会の意向をお聞きする中で、協議を重ね資料館建設の具体化に向け調整を行ってきた。

(2)「山岳図書資料館建設にかかわる基本協定書」の締結（担当：降旗孝浩）

平成 22 年 12 月 3 日(金)、牛越徹大町市長と宮本義彦長野県山岳協会会長により（仮称）山岳図書資料館の建設に関わる基本協定書の調印が行われた。この基本協定では、長野県山岳協会より図書資料及び金員の寄附を受け、山岳博物館の敷地内に（仮称）山岳図書資料館を建設することを定め、また市立大町山岳博物館創立 60 周年及び長野県山岳協会創立 50 周年の記念事業として実施することを定めた。資料館の建設は大町市が行い、資料館の建設並びに必要な設備にかかる経費の一部を長野県山岳協会が負担し、寄附の額を概ね 1,200 万円以上の資金を提供することとなった。

また資料館の規模については、最大 30,000 冊の図書資料を収蔵可能な面積を有し、完成後の資料館の管理・運営については大町市が行うものと定めた。

(3) 山岳図書資料館の設計（担当：清水博文、清水隆寿）

協定書に基づき、建設候補地について選定が協議され、数箇所の候補地から、山岳博物館敷地内の講堂東側の敷地を建設予定地として定めた。また施設の概要としては、延床面積は約 120 ㎡（約 36 坪）、鉄骨造二階建の構造、概算工事費として約 3,300 万円とした。

平成 23 年 12 月より図書資料館の設計委託の準備を開始し、翌平成 23 年 1 月 21 日に入札が行われ、（有）建築研究室夢香房が落札し、設計業務に取り掛かり、設計会社並びに山岳博物館、長野県山岳協会により二回に亘って具体的な設計プランをもとに三者協議を行っていたところであるが、2 月末に突然の設計者の急逝により、あらためて設計委託の入札を行うことになった。平成 23 年 3 月 25 日に入札が行われ、荒山設計室が落札し、あらためて設計業務を行う。委託契約期間は、平成 23 年 3 月 30 日～5 月 25 日まで実施。建築基準法にてらして、今回の建設は博物館本館とは独立した建物と位置付け、任意分割を行った上で建設を進めることとした。鉄骨造 2 階建　延べ床面積 117.45 ㎡で、内部 1 階・2 階はフローリング張りとし、内部壁面は 1 階・2 階は脱脂カラマツ板を用いる方向で検討。長野県山岳協会の要望として、丸太小屋、山小屋をイメージした木彫風の建物をイメージできるよう設計を進めることが確認された。

(4) 山岳図書資料館の建設（担当：清水博文、清水隆寿）

平成 23 年 8 月 5 日、山岳図書資料館建設工事に係る業者の入札を行い、施工業者は㈱縣工務店と決定した。施工期間は平成 23 年 8 月 12 日～平成 24 年 3 月 2 日。

概ね 8 月中は準備を行い、9 月～10 月にかけて基礎工事（土工事・コンクリート工事）を実施、11 月は鉄骨工事、木工事、屋根工事を行う。12 月は外装工事、左官工事、ガラス工事、1 月、塗装工事、電気工事、書架取りつけ、2 月仮設撤去、クリーニングを実施した上で引渡しとなった。

(5) 山岳図書資料の寄贈及び図書資料整理（担当：清水隆寿、関悟志）

長野県山岳協会との協議の中で、長野県山岳協会から大町市に寄贈される山岳図書資料は、約 20,000 点を予定した。寄贈予定図書の内訳としては、国内の一般的な山岳図書のほか、各山岳会年報・山岳研究報告書・登山計画書等、海外の山岳図書としてアルパインジャーナル・ヒマラヤンジャーナル・海外登山計画書及び報告書、登山技術文献として登山技術書などが見込まれた。

平成 24 年 2 月までに長野県山岳協会から、博物館に寄贈された書籍は旧蔵者 10 名からの約 5,500 冊となった。併せて山岳博物館所蔵図書約 11,300 冊について、平成 24 年 4 月の山岳図書資料館の開館を目途に 23 年度後半期の約半年間、4 名の図書整理員を雇用し、整理作業を行った。

なお、長野県山岳協会の創立 50 周年を記念したこの山岳図書資料館建設事業では、長野県山岳協会より総額 1,200 万円の寄付金が大町市に寄付いただいた。この事業に賛同した個人、企業、団体などは 165 名に及んだ。記して感謝申し上げる。その一部の個人・団体の方については、山岳図書資料館内に寄付名板を設置し、顕彰させて頂いている。

(6) その他

平成 24 年 4 月を目途とする図書資料館の開館に向け、図書資料館の設置要綱を始め、管理、閲覧を含めた運営方針、図書の資料整理、燻蒸、今後の教育普及方針の確定などについて、長野県山岳協会と協議の上で順次方針を定め、これらの方針に則り平成 24 年 3 月中に図書資料館内に図書を並べ、図書の閲覧・貸出が出来るような段階まで整理作業を終えることができた。

6. 展示改修

(1) 山岳博物館展示改修に係る専門委員会の開催（担当：清水隆寿）

平成 22 年 2 月を目途に展示改修のための基本計画の素案を、博物館内部において協議を行い展示のシナリオと展示構成素案を作成。3 月より基本計画の素案を基に、外部より専門有識者の協力を仰ぎ、展示改修専門委員として委嘱し、専門家からのご意見、情報を 3 月から年度をまたぎ 7 月迄延べ 3 回の検討会を実施、様々なご意見を聴取し、より具体的な展示の構成案の方向性を定めることができた。今回の展示改修においては、1 階の展示改修を中心とする為、展示改修専門委員には山岳に関わるそれぞれの専門分野の第一人者の方々（全 9 名）にご協力を頂いた。

第 1 回展示改修専門委員会を平成 23 年 3 月 24 日（木）に開催し、委嘱状交付の後今回の展示改修に関する趣旨を説明し、博物館側からのこれまでの課題や展望について、また実際に現在の展示室をご覧頂きながら、博物館側の構想などについて説明を行った。第 2 回目の会合は、平成 24 年 6 月 8 日（水）に開催、各委員より担当分野の具体的な展示の提案、及び各提案に対する質疑を行った。第 3 回目の会合を 7 月 1 日（金）に実施し、これまでの専門委員の方々の意見を展示「基本計画」に盛り込み、内容について検討を行った。またこの際、展示改修の日程について、見直しを行い平成 23 年 2 月までに展示改修の設計業者を確定し、展示構成の基本設計及び実施設計を開始し、平成 24 年 12 月に展示施工業者を決定しコンテンツ等の制作に入り、平成 25 年後半期に博物館を休館にして展

示改修を実施、平成26年4月よりリニューアルオープンとする旨、了承された。

(2) 市立大町山岳博物館展示改修基本構想の策定

三回にわたり実施された展示改修専門委員会、並びに懇話会の意見を踏まえて館内協議を実施し、標記「展示改修基本構想」を作成し、博物館協議会に諮った上で、この考え方を基本に展示改修のプロポーザルの説明資料として進めていくこととなった。

(3) 公募型プロポーザル方式による展示改修実施設計業者の選定

展示改修の実施設計業者を選定するために、公募型プロポーザル方式を採用することとし、平成23年12月1日に業者選定委員会に諮り、翌2日より大町市ホームページを通じて募集を開始した。12月13日実施の現地説明会においては3社が参加を申し込まれ、説明を受けられたが、最終的にプロポーザルに参加表明された業者は2社となった。プロポーザル審査会は平成24年1月20日（金）に実施された。なおプロポーザル審査委員には、博物館学の有識者、展示改修専門員代表、博物館協議会代表、前博物館館長など計9名に依頼し審査を行って頂いた。審査結果については、平成24年1月24日（火）に大町市ホームページで公表し、展示改修実施設計業者として(株)乃村工藝社（東京都港区台場）に決定した。実施設計の履行期間は、契約日の平成24年2月15日から9月30日とされた。

(4) 展示業者との打合せ

展示改修実施設計業者として決定した(株)乃村工藝社との第1回協議を、平成24年2月24（金）に開催する。プロポーザル審査会に(株)乃村工藝社から提案された内容について、再度館内において説明を頂き、相互の意見交換、博物館側からの要望を出す。

第2回協議は3月16日（金）に実施した。会議では、展示構成の協議、展示手法・演出の協議、今後の日程について打合せを行った。協議以降、再度館内において展示内容の詳細について検討を始める。今後は9月末までに概ね月1回程度のペースで協議を重ねていくこととした。

Ⅱ　資料収集・保存管理事業

1．資料収集

(1) 新規収集資料

平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日の間、10 件の寄贈を受け、計 4,417 点の資料を収蔵した。内訳は、山岳資料・図書資料（人文科学系）9 件 4,387 点、美術資料 1 件 30 点。

詳細については以下の通りである。

№.	受入日	資　料　名	数量	寄贈者	住　所
1	4 月 13 日	絵画	30 点	個人	長野県大町市
2	6 月 28 日	絵画に関する書籍	5 点	個人	長野県大町市
3	7 月 16 日	ピッケル、アイゼン	2 点	個人	山形県飽海郡遊佐町
4	7 月 24 日	徳本峠小屋の模型	1 点	信州大学	長野県長野市
5	8 月 25 日	ピッケル	3 点	個人	東京都三鷹市
6	9 月 28 日	山岳書籍	217 点	個人	長野県大町市
7	12 月 14 日	山岳団体会報等	3,901 点	山と溪谷社	東京都千代田区
8	12 月 27 日	W･ウェストン関係二次資料 （調査ファイル及び山岳書籍）	7 点	個人	長野県松本市
9	2 月 1 日	山岳団体会報等	248 点	山と溪谷社	東京都千代田区
10	3 月 25 日	山岳書籍	3 点	個人	長野県大町市

2．資料保存管理

(1) 収蔵資料

①収蔵資料の点数

総計 17,869 点（平成 24 年 3 月 31 日現在）　　※内訳は次の通り

分類名および点数		自然科学系　　合計　11,560 点	
菌類(液浸標本)	129 点	哺乳類(剥製･骨格標本)	226 点
蘚苔類(乾燥標本)	674 点	鳥類(剥製標本)	625 点
維管束植物(液侵標本)	7 点	昆虫(標本ドイツ箱)	166 点
維管束植物(さく葉標本)	＊6,000 点	昆虫(未標本作製資料を含む)	＊1,000 点
魚類(液浸標本)	62 点	昆虫(液浸標本)	27 点
両生爬虫類(液浸標本等)	72 点	その他液浸標本(調査研究資料)	103 点
貝･甲殻類(液浸標本)	13 点	岩石･化石	2,456 点

分類名および点数		人文科学系　　合計　6,309 点	
山岳	4,481 点	寄託(山岳、美術)	505 点
美術	188 点	(寄託内訳)	
民俗	928 点	個人寄託　248 点	
歴史	49 点	個人寄託(ﾋﾟｯｹﾙ関係)　93 点	
考古	158 点	団体寄託　164 点	

②現状と課題

中長期を見据えた主体的・積極的な資料の収集計画が明確ではなく、またそれに伴う具体的な予算処置を行っておらず、現状として資料収集の方法は相手方からの資料寄贈・寄託の申し出に限定されている状況である。

a．自然科学系

地質分野の岩石、鉱物、化石、動物（剥製）資料については資料カード（紙ベース）および最低限の検索・照会作業のＰＣ検索ができるように整理されている。

b．人文科学系

資料収集については、一次資料に関して未登録資料の新規追加登録作業を順次進めている。また、二次資料の整理も同様である。登録済み資料に関しても、資料情報の追記ほか、記録写真が未撮影のものや作図が未添付のものはそれらの作業を段階的に進めたい。当面の目標として、受付台帳をもとにした収蔵資料目録の作成・刊行を目指す。

なお、山岳資料の収集方法について、特段の予算処置を行っておらず、これまで寄贈・寄託の申し出を受けて収集にいたる場合が主であったが、現在、継続して調査を実施している山岳文化創出事業や大町山岳文化研究会の活動等を通して情報収集した個人や団体所蔵の山岳資料や図書資料等について、所蔵者へ寄贈いただけるように積極的な働きかけを行い、資料収集機会の充実に務めている。

c．管理保存

資料保存管理については、防虫剤をパラジクロロベンゼンからエンペントリンに代替中である。ただし､開放空間では空間体積に対して有効量に達しないために殺虫効果が低く､殺卵効果はないため、定期的なシフェノトリンによる簡易ガス燻蒸を展示室７回、収蔵スペース５回の実施をした。現在、資料の保存環境は好ましくない。ＩＰＭ（Integrated Pest Management）＝総合的有害生物管理に移行させるため、館内への有害昆虫類・塵などの侵入対策として、一部館入口扉の改良工事を今年度計画していたが、建物の耐震診断の結果をみてからの施行となり延期となった。展示ケースや収蔵スペースの床壁面を含め、気密性を持たせた保存環境空間の確保、あるいは全館規模での防塵・防虫対策など、施設面の抜本的な改善が急務である。

（2）所蔵図書

①所蔵図書の点数（平成 24 年 3 月 31 日現在）

ａ．一般図書資料　13,608 点（内訳：自然科学関係　4,991 点、人文科学関係　8,617 点）

ｂ．一般ＡＶ資料　265 点（内訳：自然科学関係　153 点、人文科学関係　112 点）

ｃ．山岳資料のうち図書資料関係　2,722 点

Ⅲ　調査研究事業

1．調査研究

(1) 安曇地方の湿地植物における生活史の研究（担当：千葉悟志）

10 種の対象植物のうち、これまでの観察で開花個体に至らなかったミズバショウおよびカキツバタについて継続観察を行った。その結果、ミズバショウに関しては、生育は良好なものの発芽から 4 年を経過しても開花には至らなかった。いっぽう、カキツバタは 3 年目で開花個体に至ることが明らかになった。

一昨年および昨年に引き続き、リュウキンカ、ミズバショウ、サワオグルマ、コオニユリ、クサレダマ、サワギキョウおよびエゾミソハギの訪花昆虫の観察を行った。サワオグルマにおいては、気温により花粉媒介昆虫が異なる傾向が見られた。

居谷里湿原において、エゾミソハギの異形花柱性について、湿原内を踏査した。その結果、中柱花の個体が生育しているのみであった。

上記の研究成果を踏まえ、平成 23 年 10 月 29 日（土）～12 月 18 日（日）の企画展「くさばなの一生　湿原でみられる植物の生活史　その営みとなぞにせまる！」に反映した。

	実施日	内　　容	参加者数
第 50 回	4 月 6 日	リュウキンカ、ミズバショウの訪花昆虫の観察（居谷里湿原）	4
第 51 回	4 月 15 日	リュウキンカ、ミズバショウの訪花昆虫の観察（居谷里湿原）	3
第 52 回	4 月 18 日	リュウキンカ、ミズバショウの訪花昆虫の観察（居谷里湿原）	3
第 53 回	4 月 19 日	中止	
第 54 回	5 月 25 日	サワオグルマの訪花昆虫の観察（居谷里湿原）	3
第 55 回	5 月 26 日	サワオグルマの訪花昆虫の観察（居谷里湿原）	4
第 56 回	6 月 22 日	カキツバタの訪花昆虫の観察（親海湿原）	3
第 57 回	6 月 23 日	カキツバタの訪花昆虫の観察（親海湿原）	3
第 58 回	7 月 27 日	コオニユリ、クサレダマ、サワギキョウおよびエゾミソハギの訪花昆虫の観察（居谷里湿原・親海湿原）	4
第 59 回	9 月 21 日	企画展に用いる動画撮影（親海湿原）	4

(2) 爺ヶ岳におけるライチョウ生息域内の山岳気象観測（担当：清水博文）

平成 22 年 9 月 22 日よりライチョウの生息域である爺ヶ岳に温度・湿度・日射量を計測するデータロガを設置して観測を開始した。年間の最高、最低気温は、平成 23 年 1 月 16 日 7 時の−21.306℃。平成 23 年 7 月 15 日 14 時 40 分の 21.562℃であった。

(3) 山岳文化創出業務（担当：清水隆寿）

山岳文化創出事業遂行のため、大町山岳博物館友の会に当事業を委託、平成 21 年から 3 年計画で実施し、本年が最終年度となる。

平成 21 年度は、鹿島槍ヶ岳を中心とした資料の収集・未調査資料の掘り起こし作業を実施し、『北アルプス登山史資料 1 鹿島槍ヶ岳登山史』を刊行した。

平成 22 年度と 23 年度は、白馬岳を中心とした周辺山域における明治時代から昭和 30 年代までの各期における初登頂、初登攀の記録を掘り起こし、平成 23 年度に『北アルプス登山史資料 2 白馬岳周辺登山史』を刊行した。

2．共同研究及び調査研究の協力

(1) コア・サイエンス・ティーチャー養成（ＣＳＴ）（担当：小坂共栄）

ＣＳＴ養成拠点事業は子どもの「理科離れ」が指摘されている中で、理数系中核教員＝ＣＳＴの育成をめざすため信州大学と長野県教育委員会が平成 22 年から取り組みを開始し、現職教員のスキルアップのためのプログラムや教材の制作などを進めるものである。

今年度は大北地域の理科研究会の会合にて、ＣＳＴ事業の意義や目的、具体的事業内容等について解説し、理解を深めてもらった。また、大北地域内の小中学校毎に、野外での理科教材発掘のための調査を実施した。

Ⅳ　教育普及事業

1．展示

(1) 常設展示

①展示テーマ　「山と人とのかかわり」

②展示資料点数　総計 1,437 点（平成 24 年 3 月 31 日現在）

内訳（自然科学系　合計 623 点、人文科学系　合計 814 点）

展示テーマ	資料点数	展示テーマ	資料点数
3F　展望室		1F　ホール・特別展示室	
「北アルプスの展望」コーナー	計 4 点	「山と芸術」コーナー	計 61 点
2F　第 2 展示室　※1		絵画　※2	21 点
「山岳の自然」コーナー	計 623 点	その他	19 点
北アルプスのかたち	24 点	ピッケル	21 点
2F　第 2 展示室　※1　続き		1F　第 1 展示室	
北アルプスの生いたち	80 点	「山と登山」コーナー	計 749 点
里山から高山までの生物	235 点	北アルプスの登山史	322 点
ライチョウ	7 点	北アルプスの山小屋	46 点
さわれる剥製	5 点	登山の道具	152 点
渓谷の生物	35 点	遭難	57 点
湖の生物	60 点	エベレスト周辺の地形模型	39 点
湿原の生物	55 点	日本人の海外登山	108 点
剥製ライブラリー	102 点	山のコラム	25 点
パレットライブラリー	20 点		

※1　一次資料のほか、一部写真パネルなど含む。

※2　絵画作品については、特別・企画展開催の際は展示替えのため公開していない。

(2) 企画展示

①連携企画展「山岳（やま）を科学する 2011 ―その最前線―」（担当：小坂共栄・関悟志）

a. **会　期**：平成 23 年 4 月 23 日(土)～6 月 26 日(日)　　※開催日数：延べ 57 日

b. **会　場**：特別展示室

c. **共　催**：信州大学山岳科学総合研究所

d. **概　要**：創立 60 周年の節目を迎え、これを契機に当館を「山岳科学の魅力」を広く社会に伝える場のひとつとして位置づけたいと考え、平成 17 年度より当館と協力協定を締結した信州大学山岳科学総合研究所の協力を得ながら、同研究所における研究成果と当館の展示手法とを有機的に結びつけ、市民や市外からの来館者に山岳科学の最新・最先端の研究内容をわかり易く展示・解説を行った。これにより、当館の存在意義やその魅力の一層の向上につなげることができると考えるとともに、科学的な視点を通して北アルプスの自然環境と人との関わりあいについて考えていただく契機となることを期待した。

e. **展示資料**：北アルプスの山岳環境とその利用について、森林・気象・地質・昆虫・工学・医学など幅広い分野をテーマとした最新の研究成果を分かりやすくパネル解説したほか、標本資料・調査道具・解析機材の展示を行った。

f. **入館者**：4,867 人（有料 4,295 人、無料 572 人）

g. **所　見**：参加者の増加を図るため、より効果的な告知・周知の方法を工夫したい。山岳科学の最新研究成果を紹介するため、今後、館内での研究所コーナー展示等を検討したい。展示内容については、研究所側と事前打合せを入念に行い「レベルを落とさず、かつ平易で分かりやすい展示・解説」を目指す必要がある。アンケートなど企画展そのものに対する見学者からの評価を得るべきであった。

h. **関連事業**

・4 月 23 日(土)　オープニングセレモニーと講演会「雪が語る山の環境」（講師：鈴木啓助・信大山

岳科学総合研究所長）　参加者：約 50 人(大人)
・信大山岳科学総合研究所による講演とミュージアムトーク（全 3 回）　参加者：延べ約 165 人（子ども含む）
5 月 5 日(木･祝)　第１回「北アルプス誕生の謎をさぐる」(講師：原山智・同研究所教授)
参加者：約 60 人（大人）
5 月 22 日(日)　第 2 回「水生昆虫のすみわけと DNA」(講師：東城幸治・同研究所助教)
参加者：約 15 人（子ども含む）
6 月 25 日(土)　第 3 回「登山と体力 ―インターバル速歩で登山力をアップ―」
（講師：能勢博・同研究所教授）　参加者：約 40 人（大人）

i．その他

・展示解説書　印刷部数 900 冊

②世界のライチョウとニホンライチョウ ―ニホンライチョウの現状と研究―

（担当：関悟志・千葉悟志）

a．**会　期**：平成 23 年 7 月 2 日(土)～8 月 28 日(日)　※開催日数：延べ 58 日

b．**会　場**：特別展示室

c．**概　要**：今年創立 60 周年という節目を迎えるにあたり、長年ライチョウ研究に携わってきたこと、また、今年７月に松本市でライチョウ会議長野大会が開催されることから本展を企画した。本展では、北半球に広く分布しているライチョウのなかまを広く・分かりやすく紹介することにより、種の多様性について知ってもらうことを目的とした。また、世界の最南端に生息しているニホンライチョウについて詳しく知りたい方には、最新の研究成果を紹介し、ライチョウを通しての遺伝的多様性・種の多様性・生態系の多様性、さらに景観の多様性といった生物多様性について、そして、地球規模で進んでいる環境変化について考えていただくきっかけとなることを意図した。

d．**展示資料**：北半球に広く分布しているライチョウのなかまを広く・分かりやすく紹介した（世界のライチョウを剥製で紹介。10 種 29 個体）。また、世界の最南端に生息しているニホンライチョウについて、最新の研究成果を紹介。

e．**入館者**：7,574 人（有料 6,675 人、無料 899 人）

f．**所　見**：当初の展示構成には組み込まれていなかったが、ライチョウの分類や国内での保全について最新の内容を説明するために、「世界のライチョウ類について」「野外調査からみえてきたもの」「動物園の域外保全に期待！」「ライチョウ会議をご存知ですか？」の各展示パネルを追加した。また、企画段階では、国際ライチョウシンポジウムが松本市で本年度開催される予定であり、海外のライチョウ研究者に展示解説原稿を執筆していただく調整をしていたが、東日本大震災の福島原発事故の影響で同シンポジウムが中止（来年度に延期予定）となったことから、執筆依頼できずに執筆者を変更して対応した経緯がある。実施手法については、展示の情報蓄積・提供の面から、展示解説書を編集・発行するべきであった。また、期間中の展示にかかわる教育普及活動にライチョウ会議長野大会を位置付けたが、展示内容を広く説明する機会として館内での講演会や展示説明会を実施するべきであった。

g．**関連事業**

・7 月 23 日（土）・24 日（日）　第 12 回ライチョウ会議長野大会
大会テーマ「世界的視点からとらえたニホンライチョウ ―その価値と現状」）
会　場　松本市 Ｍウイング（長野県松本市中央１－18－1）　※参加無料
主　催　第 12 回ライチョウ会議長野大会実行委員会
後　援　環境省　文化庁　関東森林管理局　近畿中国森林管理局　中部森林管理局
新潟県　富山県　山梨県　岐阜県　長野県　松本市
信州大学山岳科学総合研究所

③「くさばなの一生 湿原で見られる植物の生活史～その営みとなぞにせまる！～」

（担当：千葉悟志）

a．**会　期**：平成 23 年 10 月 29 日(土)～12 月 18 日(日)　開催日数：43 日

b．**会　場**：特別展示室・ホール

c．**概　要**：大町市・白馬村にある居谷里湿原・唐花見湿原および親海湿原に見られる 10 種の植物（リュウキンカ、ミズバショウ、サワオグルマ、カキツバタ、コオニユリ、クサレダマ、サワギキョウ、

エゾミソハギ、ミズオトギリおよびアカバナ）を対象に3年間、友の会会員と観察を行い、その成果を反映させた協働の企画展。

d. **展示資料**：章立てとし、第一章では、失われた湿原や信州の湿原の現状と課題に触れ、大町市やその周辺にある湿原を比較・解説し、近接する湿原であってもそれぞれに特徴があることを紹介した。第２章では、湿原に生育する10種の植物を対象に、花のつくりや結実の特徴、生活史について写真やボタニカルアートを用いて紹介した。

e. **入館者**：　2,291人

f. **所　見**：調査参加者は、地元の自然に対する着眼点の変化が見られるようになり、調査にも積極的に参加され、展示でも準備をお手伝いいただき博物館活動への理解度が増した。

　来館者の方のなかには、展示を見学された方から本事業への参加の希望が寄せられたり、来館時に解説を希望するグループや団体の予約､勉強会として位置づけて来館される団体もあった｡また、期間中に解説書が完売するなど、本展に対する興味が高かったことがうかがえた。

i. **その他**

・展示解説書　印刷部数650冊（第一印500冊、第二印150冊）

④「山岳公募写真展　北アルプス　―美の探求―」（担当：千葉悟志）

a. **会　期**：平成24年3月3日(土)～4月15日(日)　開催日数：40日

b. **会　場**：特別展示室・ホール

c. **概　要**：平成14年3月15日に、当館が創立50周年を迎えたのを機に大町市が「自然と人とが共生する山岳文化都市」を宣言して10年が経過した。より多くの方にこの宣言を周知するとともに公募した山岳写真を通じて北アルプス・大町の自然美をご堪能いただくことを目的として開催した。

d. **展示資料**：参加いただいた52名の各作品のうち、菊池哲男氏（山岳フォトグラファー）が選出した52作品を額装し、各賞（金賞１、銀賞２、銅賞５、入選10）並びに選外作品を一堂に展示。

e. **入館者**：　1,193人

f. **所　見**：2回目のこの度は、デジタルカメラによる作品も応募可能としたことから応募者数が前回（28名）のほぼ2倍となった。期間中の招待券による入館者数293名は、前年行った、「山岳パノラマ写真展（138名)」および「山岳同人四季（76名)」を大幅に上回る人数であり、博物館への誘客効果は高く、山岳文化都市をアピールするのによい手法と考えられる。

i. **その他**

金賞作品については、当館オフィシャルパンフレット表紙に掲載

(3) 新着資料展示

①寄贈美術作品速報展（担当：清水隆寿）

a. **会　期**：平成23年7月2日(土)～8月26日(日)　開催日数：58日

b. **会　場**：博物館ホール

c. **概　要**：平成22年中に教育委員会に寄贈された絵画のうち、博物館管理になっている武井清氏、相模一男氏より寄贈された作品を速報展として展示した。

e. **展示資料**：展示作品は、武井清作品『滝谷夕照（北穂高)』F80号・1点、山川勇一郎作品『初夏林道』『八ヶ岳の秋』『高峰スキー場』『徳沢』の合計5点

f. **所　見**：前年度寄贈された絵画作品について、速報的に市民の方々にご覧頂く機会を設け、広く来館者の方々に山岳画の普及のために開催することを目的に実施。

(4) 特別展示

①「岳－ガクー」～また山においでよ。～　特別展（担当：清水隆寿、清水博文）

a. **会　期**：平成23年4月1日(金)～8月28(水)　　開催日数：150日

b. **会　場**：博物館2階レクチャースペース

c. **主　催**：大町市（主管：観光課）・大町市教育委員会

d. **協　力**：東宝株式会社・東宝映画株式会社・長野県山岳総合センター

e. **概　要**：原作「岳」及び映画「岳」の紹介・ＰＲのため、ロケ時の撮影風景の写真などを展示し、映画の設定をイメージさせた北部警察署・山岳救助隊内部の一部を再現した。また救助隊員の衣装、小道具などの展示もあわせて行った。

　映画では北部警察署の設定として使用された大町山岳博物館は、市内でも大きな話題となり、映

画公開に先だって博物館60周年記念イベントの一環として2階レクチャースペースを利用して展示を実施した。

映画「岳」を通じて山の魅力と安全登山について理解していただけるよう長野県山岳総合センターの協力により、北アルプス北部地区遭難防止対策協会及び長野県山岳総合センターの活動と役割、遭難の原因やその対策、登山届の出し方や登山教室等の啓発活動を理解して頂く機会とした。

f. **入館者**：13,641 人

g. **所　見**：映画への関心からこの展示を見たいということで来館された方も多く、映画への興味から引き寄せられながらも、併設された遭難の現場ビデオを熱心にご覧頂き、遭難防止へと繋げることができた。

(4) **移動展示**

①さんぱく☆ぎゃらりー「アニマルウォッチング」（担当：関悟志・戸谷諭美）

a. **会　期**：第１回（通算 13 回）6 月 20 日（月）～7 月 8 日（金）　※延べ 15 日間
第 2 回（通算 14 回）10 月 18 日（火）～11 月 4 日（金）　※延べ 14 日間
第 3 回（通算 15 回）2 月 28 日（火）～3 月 16 日（金）　※延べ 14 日間

b. **場　所**：大町市役所 市民ホール

c. **概　要**：夏・秋・冬期の全 3 回開催。各回、飼育動物の写真パネル約 20 点などを展示。付属園の動物飼育スタッフがその日に撮影した飼育動物の写真を「今日のアニマルウォッチング」と題して、公式ホームページに掲載し、毎日更新している。この中からピックアップした写真を市役所市民ホールに展示することで、より多くの市民の方々に広くご覧いただくとともに、特別コーナーとして、付属園での出来事や活動などについて詳しく紹介した。展示を通して、来庁者および市職員に野生動物やその保護に理解を深めていただき、付属園の事業へ関心を高めていただく機会とした。

d. **所　見**：付属園では、希少野生動物繁殖事業、アルペン動物園友好提携事業（交換動物）、野生傷病鳥獣救護事業（大町市周辺で救護された野生動物の飼育）を実施し、それら事業にかかわり動物飼育繁殖事業（カモシカの飼育）を行っており、博物館全体の事業では大きなウェイトを占めている。こうした移動展示を行うことで、博物館への興味・関心が比較的高くなかった方々にも、付属園で行っている各事業を広く知っていただく機会となった。特に、生き生きとした野生動物の写真と、親しみを持って読んでいただけるコメントによって分かりやすく紹介することで、付属園の役割やそこで飼育している個々の野生動物の様子について、より深く知っていただけたと考える。

②安曇野アートライン推進協議会への参加・協力（担当：清水隆寿）

安曇野アートライン推進協議会は、安曇野に点在する美術館や文化施設 19 館とその所属する 5 市町村で構成され、加盟する施設の安曇野全体の文化芸術の連携と発展を目的に結成され、平成 23 年度は以下のような行事に参加・協力を行った。

・第１０回安曇野アートラインシンポジウム　「絵本の力　アートの力」

a. 会　期：平成 23 年 11 月 20 日（日）

b. 会　場：白馬村保健福祉ふれあいセンター

c. 概　要：二つの絵本美術館を中心に「絵本の力 アートの力」をテーマに、第 1 部では絵本の魅力やアートの魅力を参加者とともに考える 3 つの分科会を開催し、第 2 部では講師に絵本作家長野ヒデ子さんを招きシンポジウムを開催、

・「第６回　安曇野アートライン美術展」

a. 会　期：平成 23 年 12 月 22 日(木)～平成 24 年 1 月 15 日(日)

b. 会　場：国営アルプスあづみの公園　(堀金・穂高地区 多目的ホール)

c. 概　要：今年は国営アルプスあづみの公園（大町・松川地区）と同時開催。安曇野アートライン推進協議会に加盟する美術館・博物館所蔵の作品や、各館の紹介パネルなどを展示。公園の来館者に安曇野のアートにふれていただいた。大町市からは山川勇一郎作の「乗鞍の春」「ケルン」「徳沢」「暮れ近い窓の灯」「雪の温泉宿（草津)」「山と牛」「芝居に見とれる老頭兒」の 7 点を出品。

・アートラインサマースクール

（こども夏期大学として実施。２．教育活動　⑤こども夏期大学を参照）

③「第 10 回北アルプス雪形まつり」の企画・展示協力（担当：清水隆寿・宮野典夫）

第 10 回北アルプス雪形まつりに併せて、山岳博物館では実行委員会に加わり、雪形ウォッチング部門の展示及び企画を担当した。

a. 会　期：平成 23 年 5 月 7 日(土)～5 月 22 日(日)　開催期間：延べ 16 日間
b. 会　場：キャラリーい～ずら(二階展示場)
c. 概　要：キャラリーい～ずらの展示場で、雪形写真パネルの展示と雪形ビデオ上映を行い「い～ずら雪形写真展」を開催した（見学者延べ 350 名)。また期間中、5 月 15 日(日)には、関東学院大学の大越公平先生による「現代の雪形伝承～雪形のイメージを膨らませよう」(参加人数 25 人）の雪形講演会が行なわれた。期間中の各土・日曜日には、北アルプス各地の雪形現地見学会・雪形ウォッチングを、渡辺逸雄氏を講師に実施(4 回・43 人参加)した。

2. 教育普及活動

(1)学習会等の開催

①春の動物写生大会（担当：清水隆寿・小嶋健太・戸谷諭美）
a. **開催日**：4 月 23 日(土)～5 月 8 日(日)(延べ 16 日間)
b. **場　所**：付属園
c. **後　援**：日本動物園水族館協会中部ブロック（第 56 回中部ブロック動物園水族館写生大会に応募）
d. **参加者数**：114 人（園児 19 点、小学生 89 点、中学生 4 点、一般 2 点）
e. **概　要**：市内や周辺の幼稚園・保育園の園児、小・中学校の児童・生徒を対象にした付属園の動物や園内風景を画題とする写生大会。動物の愛護精神を高め、描画教育並びに文化の向上と親善を図ることを目的とする。
f. **所　見**：参加人数は平年並みであったが、授業の一環として参加しているものを除くと、期間中の個人的な参加は約半数強の 60 人程度となる。参加チラシも児童、生徒総てに配布してご覧頂いているなかで、参加数を増やすことはかなり厳しい状況にある。
g. **作品展示：** 7 月 16 日（土）～8 月 7 日（日）（延べ 23 日間）において、参加頂いた 114 名の作品すべてを博物館講堂において展示した。
h. **審査と表彰：**5 月 19 日（木）に市内小中学校の先生を審査員（5 名）として 33 点、博物館職員の審査による特別賞を 9 点選出し、写生画表彰式（場所：講堂）を 7 月 16 日(土)に行った。表彰式参会者は児童が 38 名、父兄の参加は 55 名でした。
i. **関連イベント**
展示「動物写真展～もっと近くで見てみよう」
写生の参考になるよう、動物の体の特徴的な部分や通路からは観察が難しい動物の体の部分の写真を展示して解説、春の動物写生大会の会期中、講堂に展示した。

②付属園動物観察ツアー（担当：関悟志・小島健太）
a. **開催日**：4 月 23 日(土)・24 日（日）・29 日（金）～5 月 8 日(日)　※延べ 12 日間・24 回
b. **場　所**：付属園
c. **参加者数**：154 人（大人 102 人、子ども 52 人）
d. **概　要**：館職員（動物担当学芸員・動物飼育員）が来園者と一緒に園内を歩きながら解説することで、博物館で飼育しているカモシカをはじめとする動物たちの来園由来や、種としての特性などについての見学効果を高めるために実施した。

③付属園スタンプラリー（担当：千葉悟志・戸谷諭美）
a. **開催日**：①平成 23 年 4 月 23 日(土)～24 日（日)、29 日（金）～5 月 8 日(日)（12 日間）
②平成 23 年 7 月 16 日(土)～18 日（月)、23 日（土）～24 日（日)、30 日（土）～31 日（日)、8 月 6 日(土)～16 日（日）(18 日間)
③平成 23 年 9 月 17 日(土)～19 日（月)、23 日（金）～25 日（日)、10 月 29 日（土）～30 日(日)、11 月 1 日（火）～6 日（日）(14 日間)
b. **場　所**：付属園
c. **参加者数**：①：622 人　②：346 人　③：221 人
d. **概　要**：付属園内の数カ所に、職員手作りのオリジナルスタンプを設置し、動物を観察しながらスタンプを探して集め、全てスタンプを集めた参加者には、参加記念とし、特大スタンプを押印した。
e. **所　見**：ゲーム感覚で参加できることで、子供はもちろん大人の方にも楽しんでいただくことがで

きた。恒例のイベントとして定着してきたことで、毎回楽しみにしてくださるリピーターの方がいた。また手作りのスタンプには高評価をいただいた。

④小鳥の声を聞く会（担当：関悟志・清水博文）

a. **開催日**：平成 23 年 5 月 8 日(日)

b. **場　所**：山岳博物館から鷹狩山山頂

c. **講　師**：長澤修介先生・腰原正己先生・鳥羽悦男先生

d. **協　力**：山岳博物館友の会

e. **参加者数**：20 人（大人 17 人、子ども 3 人）

f. **概　要**：野鳥を中心とした自然観察会を山博友の会の協力（豚汁ふるまい）を得て実施した。当日記録した鳥類は合計 38 種。アオゲラ、サンショウクイ、シジュウカラなどほか、今回新たにアオバトを観察した。この観察会は今回で 31 回（観察記録が残されているもの）を数え、鷹狩山における野鳥の生息動向に関する調査記録を蓄積することができた。なお、前日夕方から夜には、友の会主催で観察会の事前学習会「ふくろうプログラム」が開催され、博物館展示室内で剥製を用いたストーンペインティング、山岳総合センターで野鳥や鷹狩山周辺の地形・地質の学習、屋外で天体観察などを実施した（参加会員 11 人）。

g. **所　見**：専門の講師に解説していただきながら、鷹狩山の野鳥を目と耳から詳しく観察することができ、参加者には春の自然を満喫していただけた。同時に、昭和 49 年から記録している出現鳥一覧データを更新でき、博物館の貴重な記録となった。一方、参加者について、結果として定員の半分に満たない人数であった。定員 50 人設定だが、現状の引率体制では、1 班 10 人以内程度の 3 班編成が適切と思われる。今後は定員 30 人として募集し、若干人数の定員オーバーは受入可能とするなどの運営面の検討が必要。また同時に、参加者の増加を図るため、より効果的な告知・周知の方法を工夫したい。

⑤山博こども夏期だいがく（担当：千葉悟志・関悟志）

a. **開催日**：平成 23 年 8 月 2 日（土）・3 日（日）

8 月 2 日（午前 10 時～午後 4 時 30 分）

1 時間目（午前 10 時～10 時 50 分）

「野生動物の生活をのぞいてみよう」（ア）

2 時間目（午前 11 時～11 時 50 分）

「スズメバチの巣をのぞいてみよう」（イ）

3 時間目（午後 1 時 30 分～4 時 30 分）

「化石を掘り出そう」（ウ）

8 月 3 日（午前 10 時～午後 2 時 10 分）

1 時間目（午前 10 時～10 時 50 分）

「登山の道具をさわってみよう」（エ）

2 時間目（午前 11 時～11 時 50 分）

「むかしの山小屋にとまってみよう」（オ）

3 時間目（午後 1 時 30 分～2 時 10 分）

「はなが昆虫を引き寄せるくふう？（カ）

b. **場　所**：山岳総合センター及び山岳博物館

c. **参加者数**：延べ 84 人（ア．10、イ．21、ウ．33、エ．5、オ．5、カ．10 人）

達成率 70%（募集人員 120 名）

d. **概　要**：各学芸員及び専門員が地域のことを題材に館内展示物や実物を用いた講座または体験型による講座。

e. **所　見**：昼食をはさむため保護者の送迎に難が生じたことが考えられる。次回からは午前あるいは午後のいずれかの開催が望ましいと思われる。また、レジュメを作成しない講座が多く、次年度は子どもたちに十分に理解していただくように、また復習ができるようにレジュメなどの資料を作成することがよいと考えられる。

⑥市民登山（担当：関悟志・清水博文）

a. **開催日**：8 月 27 日(土)～29(月)

b. **場　所**：烏帽子岳から船窪岳

c. **参加者数**：縦走コース 17 人、往復コース 14 人

d. **概　要**：市体育課社会体育係で開催した第 61 回大町市民登山のしおりの執筆と、2 泊 3 日縦走コースの自然観察指導という立場で館職員が 1 名参加した。

e. **所　見**： 縦走コースは、市民登山としてはハードなコースであった。時間的な余裕がなく自然観察を行う時間がほとんど取れない情況であり、実質的に登山引率者の補佐として携わった。

⑦消しゴムスタンプを作ろう！（担当：関悟志・戸谷諭美・尾関美穂）

a. **開催日**：11 月 23 日(水・祝)

b. **場　所**：講堂

c. **参加者数**：7 人（小学生のみ）　※このほか、付き添いの保護者（大人）7 人、付き添いの兄弟・姉妹（小学生未満）2 人、友の会ボランティアサークル会員（大人）1 人が参加〈計 17 人（子ども 9 人、大人 8 人）〉

d. **概　要**：付属園の飼育動物を絵柄にした消しゴムスタンプ作り。付属園では、飼育動物を絵柄にしたオリジナルスタンプを押しながら園内を回る「ふぞくえんスタンプラリー」を春・夏・秋に開催している。そこで使われている“消しゴムスタンプ”を参加者自身で作成していただき、付属園や飼育動物への関心をさらに高めていただく。

e. **所　見**：小学生を対象に付属園や飼育動物への関心を高めていただくことが目的だが、単なる学習会や説明会という方法ではなく、子どもが気軽に楽しみながら参加体験できる工作教室という方法で、間口を広く角度をかえたアプローチから実施した。閉会時に付属園の役割や飼育動物についての説明を行ったが、終了後、付属園を見学して帰る参加者が多数いた。結果として、参加者には工作作品の完成という満足を得てもらうと同時に、絵柄にした付属園の飼育動物や付属園の役割について身近に感じてもらうひとつのきっかけとなったと考える。

⑧親子探鳥会（冬鳥の観察会）（担当：関悟志）

a. **開催日**：平成 23 年 12 月 11 日(日)

b. **場　所**：木崎湖周辺

c. **講　師**：長澤修介先生・腰原正己先生・鳥羽悦男先生

d. **参加者数**：18 人（大人 9 人、子ども 9 人）

e. **概　要**：野鳥を中心とした自然観察会。冬季は湖や河川に多くのカモ類など水辺の鳥が集まり、林の中は落葉により木々の枝にとまっている小鳥たちの姿を見つけやすいバードウォッチングに適した季節であり、カモ類などの観察のほか、植物の観察などを行った。当日記録した鳥類は合計 24 種。オオバン、カイツブリ、ヨシガモなどのほか、今回新たにウグイス、コサギ、ユリカモメを観察した。この観察会は平成 15 年度以降毎年実施し、今回で 9 回目を数え、木崎湖周辺における野鳥の生息動向に関する調査記録を蓄積することができた。

f. **所　見**：専門の講師に解説していただきながら、木崎湖畔の水辺の鳥を中心とした野鳥を詳しく観察することができ、参加者には冬の自然を満喫していただけた。同時に、平成 15 年から記録している出現鳥一覧データを更新でき、博物館の貴重な記録となった。一方、参加者について、結果として定員の 6 割の人数となった。今年度はリーフレット（カラー用紙に印刷機で印刷）を市内小中学校の全児童・生徒に学校を通じて配布したが、参加者の増加を図るため、より効果的な告知・周知の方法を工夫したい。

⑨松ぼっくりツリーを作ろう！（担当：関悟志・小嶋健太・尾関美穂）

a. **開催日**：12 月 10 日(土)

b. **場　所**：講堂

c. **参加者数**：13 組　計 20 人（子ども 13 人、大人 7 人）

d. **概　要**：付属園内で集めた松ぼっくりを使ったクリスマスツリー作り。付属園内に落ちている松ぼっくりを有効利用して、参加者にオリジナルクリスマスツリーを作っていただいた。手作り工作を楽しみながら、付属園の飼育動物の中からそれぞれお気に入りの動物を見つけることで、その動物へ愛着と関心を持ち、さらに野生動物を身近に感じていただくきっかけを提供することを目的とした。

e. **所　見**：幼児から小学生を対象に付属園や飼育動物への関心を高めていただくことが目的だが、単なる学習会や説明会という方法ではなく、子どもが気軽に楽しみながら参加体験できる工作教室という方法で、間口を広く角度をかえたアプローチから実施した。閉会時に付属園の役割や飼育動物についての説明を行なったが、終了後、付属園を見学して帰る参加者が多数いた。結果として、参加者には工作作品の完成という満足を得てもらうと同時に、絵柄にした付属園の飼育動物や付属

園の役割について身近に感じてもらうひとつのきっかけとなったと考える。

⑩平成23年度 公共ホール音楽活性化支援事業「クラリネット&ハープ デュオ コンサート ―素顔な一刻。」コミュニティプログラム アクティビティ4

「コラボしよう！ 夜のミュージアム ―素顔な一刻。」（担当：関悟志）

a. **開催日**：12月10日（土）

b. **場　所**：ホール（特設会場）

c. **共催等**：共催 財団法人地域創造、制作協力 社団法人日本クラシック音楽事業協会、
後援 大糸タイムス社、公演委託 株式会社ミリオンコンサート協会
（主催 大町市・大町市教育委員会、主管 生涯学習課大町市文化会館）

d. **参加者数**：58人

e. **概　要**：“さんぱく”（山博＝山岳博物館）の「夜のミュージアム」と“おんかつ”（音活＝公共ホール音楽活性化支援事業）」がコラボレーションしてお贈りしたミニコンサート。クラリネット奏者・小谷口直子（こたにぐち なおこ）さんとハープ奏者・福島青衣子（ふくしま せいこ）さんを迎えて、“音楽”と“語り”のコラボレーションによる「山鳥の尾」（語り・栗林さとし さん）などをお楽しみいただく約1時間30分のコンサート。

f. **所　見**：会場規模から定員50人とし、入場整理券50枚を山岳博物館（30枚）と文化会館（20枚）にて事前配布したが、当日までに全ての整理券を配布した。当日は、事前配布者のほぼ全員が来場したほか、入場券を持たずに直接来場した方が 11 人おり、定員を超える参加者となり、関心の高さがうかがえた。コンサート開始と終了に際して、館長があいさつとお礼の言葉を述べ、参加者には終了後に館内の展示見学や3階からの夜景見学を行っていただいた。音楽を通して夜の博物館を楽しんでもらうことで、普段の博物館利用者層とは違った皆様方にも足を運んでもらうことができ、市民や地域住民により身近な施設として博物館を感じていただける機会になったと考える。なお、「夜のミュージアム」は安曇野アートライン推進協議会「安曇野アートラインサマースクール」に位置付けた事業として当館では平成 22 年度から各種催しを実施してきたが、本年度は開催時期が夏の該当期間でなかったため館独自で実施した。

⑪大町山岳文化研究会（担当：清水隆寿）

同研究会は、山岳博物館友の会を主軸にして広く一般市民の方々にも参加を募り、「山岳」にテーマを置いて、北アルプスの登山史や地形・地質、雪形、あるいは現在の登山が抱える課題、自然保護など広範な人文・自然科学といった学問を横断して、会員自らが地域を考え、互いに学習を深め生涯学習を推進していく場として、平成20年7月より活動を開始し、本年で4年目である。
概ね月1回、月半ば頃の水曜日、午後6時～8時を目安に実施。

平成23年3月現在、会員19名で活動している。以下は、本年度の活動内容の要旨である。

	実施日	内　　容	参加者
第36回	4月20日	『北アルプス山小屋物語』著者・柳原修一氏による、刊行当時のエピソードなどを伺う	13
第37回	5月28日	燕山荘・赤沼淳夫氏からの聞き取り調査（於：ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞあずみ野温泉ﾎﾃﾙ）	16
第38回	6月29日	第13回山小屋調査報告会　黒沢ﾋｭｯﾃ等について	12
第39回	7月29日	第14回山小屋調査報告会　涸沢ﾋｭｯﾃ調査報告等について	13
第40回	8月19日	第15回山小屋調査報告会　ﾋｭｯﾃ大槍調査報告等について	11
第41回	10月24日	第16回山小屋調査報告会　北沢駒仙小屋、穂高岳小屋等	6
第42回	11月29日	第17回山小屋調査報告会　涸沢ﾋｭｯﾃの雪囲いについて	7
第43回	1月27日	エバニュー山岳映画鑑賞「槍ケ岳と共に」「白馬夏山」等	8

（2）学校との連携・融合（調整：関悟志）

期　日	内容（館外の実施場所）	対象校・学年など	人数	指　導
4月28日	総合的な学習（美麻小中学校）	美麻中1～3年	38	清水博文
5月16日	カワニナ学習会（農具川）	大町東小3年	36	清水博文
5月17日	動物写生指導	大町東小2年	40	清水隆文
5月20日	社会科学習	美麻小3・4年	24	宮野・清水隆寿
5月24日	総合的な学習	大町西小3年	24	関
6月 2日	職業体験学習	八坂中2年	2	小嶋・戸谷

期　日	内容(館外の実施場所)	対象校・学年など	人数	指　導
6 月 3 日	職業体験学習	八坂中 2 年	2	小嶋・戸谷
6 月 17 日	職業体験学習	仁科台中 2 年	1	関
6 月 21 日	総合的な学習	大町西小 3 年	24	小坂
6 月 21 日	爺ヶ岳登山事前学習会	第一中 2 年	130	千葉・関
6 月 24 日	総合的な学習	美麻中 1 年	3	清水博文
6 月 28 日	職業体験学習	第一中 2 年	2	小嶋・戸谷
6 月 29 日	職業体験学習	第一中 2 年	2	小嶋・戸谷
7 月 1 日	職業体験学習	仁科台中 2 年	1	関
7 月 5 日	キャンプ自然観察(木崎湖)	大町南小 5 年	65	清水博文
7 月 8 日	職業体験学習	仁科台中 2 年	1	関
7 月 14 日	キャンプ自然観察(青木湖)	池田小 5 年	45	清水博文
7 月 14 日	野外学習事前学習(大町高校)	大町高 1 年	35	千葉
7 月 15 日	社会科学習	大町北小 3 年	74	宮野・清水隆寿・関
7 月 15 日	総合的な学習(美麻小中学校)	美麻中 1 年	12	清水博文
7 月 15 日	職業体験学習	仁科台中 2 年	1	宮野
7 月 19 日	トンボ観察会	大町東小 3 年	36	清水博文
7月 19 日	総合的な学習	大町西小 3 年	24	関
7 月 20 日	職業体験学習	小谷中 3 年	2	小嶋・戸谷
7 月 21 日	職業体験学習	小谷中 3 年	2	小嶋・戸谷
7 月 22 日	職業体験学習	仁科台中 2 年	1	関
8 月 1 日	野外実習(親海湿原)	大町高校 1 年生	35	千葉
8 月 26 日	職業体験学習	仁科台中 2 年	1	小嶋・尾関
9 月 2 日	職業体験学習	仁科台中 2 年	1	小嶋・尾関
9 月 9 日	職業体験学習	仁科台中 2 年	1	小坂・関
9 月 14 日	職業体験学習	仁科台中 2 年	2	戸谷・尾関
9 月 15 日	職業体験学習	仁科台中 2 年	2	戸谷・尾関
9 月 27 日	総合的な学習	大町西小 3 年	24	清水博文
10 月 25 日	総合的な学習	大町西小 3 年	24	千葉
11 月 29 日	総合的な学習	大町西小 3 年	24	関
11 月 21 日	職業体験学習	美麻中 1 年	1	小嶋・尾関
11 月 22 日	職業体験学習	美麻中 1 年	1	小嶋・尾関
11 月 30 日	連携授業　理科	大町南小 4 年	61	宮野・清水博文・関
12 月 13 日	職業体験学習	大町北高校 1 年	2	小嶋・戸谷
12 月 14 日	職業体験学習	大町北高校 1 年	2	戸谷・尾関
2月 7 日	理科授業(美麻小中学校)	美麻中 1 年	12	小坂
2月 14 日	理科授業(美麻小中学校)	美麻中 1 年	12	小坂
2月 8 日	社会科授業	大町東小 4 年	44	清水隆寿・関
2月 14 日	連携授業　社会科	大町南小 4 年	61	清水隆寿・関
2月 23 日	理科授業(大町北小)	大町北小 6 年	81	小坂
実施回数:延べ 46 回		学校数:13 校	人数合計:述べ 1,018 人	

(3) 学芸員実習の受入（調整：関悟志）

期　日	実 習 者	人員(人)	指導
7 月 26 日～10 月 18 日 （10 日）	信州大学理学部地質科学科 4 年	1	小坂

博物館法第 5 条（学芸員の資格）第 1 項第 1 号の規定により、学芸員の有資格者となるために大学で修得すべき博物館関係科目単位の一つである博物館実習を希望する大学生の受け入れを行った。当館での学芸員実習（博物館実習）は博物館における実践的な側面の学習を主眼におき、実習を実施。教育普及を中心に資料整理や受付業務等の博物館業務全体について実習を行い、地方における地域博

物館の役割を体験的に学習していただいた。当館では10日間の実習を原則とし、例年3名程度を受け入れ、資料整理や教育普及、受付業務等の実習を行っている。本年は1名を受け入れ、小坂専門員が担当した講座等の日程に合わせ、講座の準備・補助や岩石・化石標本の採集・整理等を中心に実習を行った。

(4) 各種観察会・学習会の共催・協力（調整：関悟志）

期　日	内容(館外の実施場所)	主　催	参加者	指　導
4月12日	地質講演(大町公民館分室)	新日本婦人の会大町支部	300	小坂
4月19日	ガイド研修	アルピコハイランドバス松本北営業所	8	千葉
4月28日	ガイド研修	長電バス株式会社	8	清水博文
5月 4日	自然観察会(居谷里湿原)	文化財センター	40	千葉
5月 7日	雪形ウォッチング(安曇野市～白馬村)	北アルプス雪形まつり実行委員会	5	清水隆寿
5月 7日	探鳥会事前学習会 (長野県山岳総合センター)	山博友の会	12	清水博・関
5月15日	雪形ウォッチング(安曇野市～白馬村)	北アルプス雪形まつり実行委員会	18	清水隆寿・関
5月15日	雪形講演会(ギャラリー・いーずら)	北アルプス雪形まつり実行委員会	25	清水隆寿・関
6月2日	講演会(サン・アルプス大町)	大北地域連合婦人会	100	小坂
6月19日	地質講演(海ノ口公民館)	海ノ口絆会	50	小坂
6月20日	山野草講演(平公民館)	平公民館	15	千葉
6月26日	植物講演・観察会(館周辺)	長野県環境保全研究所	20	千葉
7月 1日	現地視察	大町・糸魚川市二市議会議員連絡協議会	46	宮野
7月6日	研修視察	上田市補導委員協議会	25	宮野
7月12日	行政視察	旭川市議会	6	宮野
7月13日	議員視察	舞鶴市議会	5	宮野
7月14日	ガイド教習	北陸交通	3	宮野
7月17・18日	キャンプ自然観察(山の子村)	山博友の会	24	清水博文
7月23・24日	シンポジウムパネリスト他(松本市Mウイング)	ライチョウ会議長野大会実行委員会	100	宮野
8月 4日	留学生の信州を学ぶ学習会 (フレンド・プラザ大町)	信州大学	40	小坂
8月 4日	行政視察	関市議会	11	清水隆寿
8月10日	昆虫観察(館周辺)	大町西小児童クラブ	23	清水博文
8月21日	よりよいパートナーの集い(常盤公民館)	常盤公民館	70	小坂
8月23日	歴史・文化等施設見学	ＮＰＯ小谷山村留学育成会	16	清水博文
8月27～29日	市民登山・動植物指導 (烏帽子岳～船窪岳)	体育課	31	清水博文
8月31日	ガイド研修	伊那バス	9	清水博文
9月 7日	なかよし広場	社公民館	56	関
9月8日	高齢者学級(美麻公民館)	美麻公民館	31	清水博文
9月15日	地質講演(大町公民館分室)	新日本婦人の会大町支部	70	小坂
9月28日	自然保護レンジャー・自然インストラクター研修会(大町合同庁舎)	北安曇地方事務所環境課	27	清水博文
9月30日	研修視察	中信地区三市青少年センター・補導委員協議会	26	清水博文
10月 6日	すくすく広場	大町公民館	18	関
10月 7日	自然環境・山岳の学習	立川市・立川市文化振興財団	47	清水博文
10月20日	環境保全講演（大町市役所)	大町市生活環境課	40	清水博文
10月22・23日	放送大学面接授業	放送大学	20	小坂
11月26日	信大自然環境診断マイスター研修会(長野県山岳総合センター)	信大自然環境診断マイスター	18	宮野・清水博文・小坂・千葉

期　日	内容(館外の実施場所)	主　催	参加者	指　導
1 月 27 日	ササユリ保護の研修講演(飯田合同庁舎)	長野県環境部環境課	51	千葉
2 月 7 日	展示事例発表(長野県歴史博物館)	長野県博物館連絡協議会	80	清水隆寿
3 月 11 日	山博友の会総会記念講演 (大町市総合福祉センター)	山博友の会	26	千葉
実施回数・団体数:延べ 40 回・40 団体		人数合計:延べ 1,520 人		

(5) テレビ・ラジオへの出演（調整：清水博文）

放送日	放送局名	番組名	形　態	内　容
5 月 9 日	SBC ラジオ		生出演	企画展（小坂）
5 月 6 日	ＮＨＫ	プラザ N	生出演	創立 60 周年（宮野）
11 月 1 日	FM 長野	まるごとおおまち	取材による出演	企画展（千葉）

(6) 収蔵資料などの貸出（調整：清水博文・清水隆寿・関悟志）

期　日	用　途	貸出先	貸出資料・点数
4 月1日～　※長期貸出	教育普及	新潟県	ライチョウ剥製 2 点
	常設展示	京都市動物園	カモシカ骨格標本 2 点
	常設展示	富山市科学文化センター	ライチョウ剥製 1 点
4 月 21 日～7 月 17 日	企画展示	田淵行男記念館	志村烏嶺写真 1 点
5 月 18 日～24 日	企画展示	名古屋高島屋	ザイルほか計 5 点
6 月 22 日～9 月 15 日	企画展示	丸山晩霞記念館	中村清太郎ほか絵画計 7 点
7 月 19 日～11 月 25 日	企画展示	東日本鉄道文化財団	リュックサックほか計 3 点
8 月 25 日	TV番組使用	長野朝日放送	遠山品右衛門写真 1 点
9 月 14 日～12 月 10 日	企画展示	長野県立歴史館	大下藤次郎絵画 1 点
9 月 30 日～12 月 6 日	企画展示	安曇野市豊科郷土博物館	剥製・写真計 16 点
11 月 11 日～12 月 1 日	機関紙掲載	(社)中部経済連合会	対山館写真ほか計 6 点
11 月 28 日	ラジオ取材資料	長野エフエム放送	図書資料 1 点
12 月 1 日	ブログ掲載	長野エフエム放送	ライチョウ写真ほか計 5 点
1 月 27 日	DVD 映像使用	V.S.P	百瀬慎太郎写真ほか計 4 点
2 月 5 日	写真集掲載	クリエイティブセンター	慎太郎祭写真 1 点
2 月 6・8 日	DVD 映像使用	中央企画	雪形写真ほか計 5 点
2 月 26 日	HP掲載	個人	雪形写真計 3 点
3 月 16～23 日	調査・研究	宮田村教育委員会	図書資料 1 点

このほかにも社会教育施設・研究機関・個人などによる各種照会や報道機関・雑誌編集社などによる各種取材などがあり、随時これらに協力した。

3. 執筆・出版

(1) 執筆

①とうげの旗連載「大町山岳博物館【四季の窓から】」（調整：千葉悟志）

「とうげの旗」は信州児童文学会が親子で読みあう雑誌として季刊発行している。平成 21 年 9 月(152 号）から「大町山岳博物館【四季の窓から】と題した科学的なシリーズに博物館の職員が担当した。なお、本誌は平成 24 年 2 月発行の第 152 号を持って廃刊となった。

掲載月日	号数	執筆者	題　　名
平成 23 年 6 月 60 日	159	宮野典夫	ライチョウのヒナは寒がり
9 月 20 日	160	小坂共栄	足元がゆれる！こわい「地震」のおはなし
11 月 30 日	161	千葉悟志	ミズバショウ　水芭蕉
平成 24 年 2 月 10 日	162	清水博文	クロツバメシジミとツメレンゲ

②長野県博物館協会会報「博物館の友」第 42 号（担当：関悟志）

県博協の原稿依頼を受け、「動植物の自然展示と山岳文化の歴史展示」という題名で、博物館の歩み、博物館の展示、これからの博物館について紹介する一文を執筆し、上記に掲載された。

(2) 出版

①新規出版物

a. 展示解説情報シート

常設展示に関して、展示解説パネルでは紹介しきれない情報を項目ごとにまとめた A4 判のカラー版。館内にて 1 部 30 円で販売しており、今年度は 890 部の利用があった。

b.『山と博物館』（担当：清水博文・清水隆寿）

昭和 31 年 2 月に『やまと博物館』として創刊（昭和 32 年 1 月『山と博物館』に改題）。毎月、多分野の方々に原稿を寄せていただき、北アルプスを中心とした山岳の自然や歴史などの「山岳文化」と博物館の活動について広く情報発信を続けている。毎月 25 日発行、発行部数 1,000 部。体裁 A4 判、二ツ折 4 頁、単色刷り。定価 100 円。年間購読料 1,500 円（送料含む）。

平成 24 年 3 月 31 日現在、購読者数は 448 名で有料 167 人、無料 281 人

巻号	月	頁	題　　名	著者名
564	4月	①	中部山岳地域の環境変動	鈴木啓助
		②～④	企画展「山岳を科学する 2011―その最前線―」のみどころ	山本信雄
565	5月	①	この映画を見たらきっと山に登りたくなる	松澤まさみ
		②～④	なぜ事故は起こるのか	永井柳
566	6月	①	ヤズィックアグル～6770mの未踏峰～	三戸呂拓也
		②～④	飛州新道（飛騨新道）の道筋と庄屋の槍ヶ岳山行記	穂苅貞雄
567	7月	①	企画展「世界のライチョウとニホンライチョウ―ニホンライチョウの現状と研究―」	市立大町山岳博物館
		②～④	世界的視点からとらえた日本のライチョウの価値	中村浩志
568	8月	①	特集「日本山岳画協会　創立 70 周年	武井清
		②～⑧	座談会「日本山岳画協会創立 75 周年を記念して	武井清ほか
569	9月	①	登録有形文化財の山小屋「徳本峠小屋休憩所」と「嘉門次小屋囲炉裏の間」	梅干野成央
		②～④	社会人山岳団体　登歩渓流会（愛称「とぼけるかい」）その誕生から終焉までの概要	尾崎芳
5610	10月	①	高山帯で発生した人身事故から見えること	林秀剛
		②～⑥	大町市「山寺廃寺」と周辺史跡の考察（その 1）	荒井今朝一
5611	11月	①	生活史を知ることで、もっと植物が身近に感じられる	中山洌
		②～④	企画展「くさばなの一生　湿地で見られる植物の生活史　～その営みとなぞにせまる！～」企画展では紹介しきれなかったお話　その1	大北地域の湿地植物の生活史研究グループ
5612	12月	①	市立大町山岳博物館創立 60 周年を迎えて	牛越徹
		②　④	大町山岳博物館の過去・現在・未来（上）	君塚仁彦
571	1月	①	61 年目からの山岳博物館	宮野典夫
		②　④	大町山岳博物館の過去・現在・未来（下）	君塚仁彦
572	2月	①	学校との連携授業 ―より身近な博物館をめざして―	関悟志
		②　④	企画展「くさばなの一生　湿地で見られる植物の生活史　～その営みとなぞにせまる！～」企画展では紹介しきれなかったお話　その1	大北地域の湿地植物の生活史研究グループ
573	3月	①	「第二回山岳公募写真展」選考にあたって	菊地哲男
		②　⑥	山岳公募写真展　北アルプス　美の探究	菅原悦子、石川伸太郎、遠藤鷹一、田淵典子、林有道、福井一夫、斉藤一久、山岸明、麻田祐介、川上満、草場久仁子、小島輝夫、寺尾拓峰、林良一、荻野谷泰伸、山口正美、山田一英、山田要子

（敬称略）

c．**年報**（担当：清水博文）

『平成22年度年報』（発行日：平成24年1月31日、発行部数：200部、体裁：A4判、37頁、単色刷り）を編集・発行した。

②販売中の出版物

現在、販売中の当館編による出版物は以下の通り。（平成24年3月31日現在）

書　名	発行先	発行年	備　考
山と博物館	大町山岳博物館	毎月25日	年間購読、館内販売
展示解説情報シート	大町山岳博物館	随時更新	館内にて販売中
H23企画展　くさばなの一生	大町山岳博物館	平成23年	〃
H23企画展　山岳を科学する2011	大町山岳博物館	平成23年	〃
H21企画展　高山の自然は今…	大町山岳博物館	平成21年	〃
北アルプスの自然と人（展示案内書）	大町山岳博物館	平成17年	〃
ブルーガイド旅読本 上高地　安曇野　輝ける大地の自然と人	実業之日本社	平成14年	書店にて販売中
新・北アルプス博物誌	信濃毎日新聞社	平成13年	〃
ライチョウ　生活と飼育への挑戦	信濃毎日新聞社	平成4年	〃
カモシカ　氷河期を生きた動物	信濃毎日新聞社	平成3年	〃

4．広報

(1) インターネット・公式ウェブサイト（担当：千葉悟志）

博物館の企画展やイベントをアップするほか、「今日の北アルプス」、「アニマルウォッチング」を毎日、更新し、『飼育員の奮闘記』は隔週で話題を提供した。

URL：http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

(2) インターネット・外部ウェブサイト（担当：関悟志）

市、安曇野アートラインの各ウェブサイトを管理し、掲載情報を逐次更新していく。なお、展示や催しの各情報は、基本的に「広報おおまち」の掲載内容や「情報提供書」の記載内容とした。

①市ウェブサイト

施設概要、企画展・特別展のお知らせ、イベントのお知らせについて掲載し、開館時間・休館日・利用方法等の案内、現在開催中または今後開催予定のイベントや企画展や特別展の情報を随時発信している。

URL：http://www.city.omachi.nagano.jp/ctg/00027010/00027010.html

②安曇野アートラインウェブサイト

当館が加盟する安曇野アートライン推進協議会では、平成17年5月にウェブサイトの運用を開始し、平成18年9月にサイトを充実させてリニューアルした。ここでは当館所蔵の山岳風景画など絵画を中心に紹介し、当館公式ウェブサイトとリンクさせて企画展やイベント情報などを随時発信している。なお、同会では平成24年度にサイトの全面リニューアルを予定し、23年度事業としてリニューアルへ向けた検討・準備を実施した。

URL：http://azumino-artline.net /oomachi/

(3) 大町博物館連絡会発行博物館めぐり案内図（担当：清水博文）

大町博物館連絡会は市内加盟館10館で構成されている。「おおまち博物館めぐり案内図」はＢ４縦カラーで平成23年4月に発行したものを、近隣のホテル・旅館や夏休み前に市内小学校に配布した。

5．友の会（担当：宮野典夫、清水隆寿）

大町山岳博物館友の会は大町山岳博物館を通して、会員の知識の向上をはかると共に、山岳博物館の種々の事業に協力することを目的で、自然観察会、例会・講演会、会報の発行、博物館の事業に参加し協力する団体である。なお、友の会の年度は2月1日から翌年の1月31日のためこれに従って報告する。

(1) 組織

①役員

a. 会　長　宮澤洋介

b. 副会長　有川美保子、西沢泰夫

c. 運営部　部長：川崎晃　副部長：宮田京子

部員：塩瀬淳也、丸山優子、栗林稔、中畑清貴、朝重孝治、高野淳子、瀬戸口三栄子、横沢裕美、関悟志

d. 編集部　部長：丸山卓哉　部員：宮澤洋介、岑村隆、五十川渡

e. 事務局　仙波美代子(こまくさ担当)、宮野典夫、清水隆寿

f. アドバイザー　川崎裕子

g. 監　査　倉科恵一、越山頼子

h. 顧問　千葉彬司、長沢正彦

②構成（平成 24 年 1 月末日現在）

会員種別	会員数	会員種別	員数	会員種別	員数
ファミリー会員	271 人(76 ﾌｧﾐﾘｰ)	個人会員	61 人	学生会員	1人
賛助会員	2 人	終身会員	2 人	名誉会員	3 人
合　計	340 人				

(2) 運営部

①行事

活動日	参加	主な内容
2 月 20 日	12 人	冬の自然観察会　中山高原（大町スキー場）
3 月 13 日	40 人	平成 23 年度総会
	60 人	記念講演会「山小屋のお父さん・お母さん」松澤宗洋・寿子さん
5 月 7～8 日	12 人	小鳥の声を聞く会　ふくろうプログラム(山岳総合センター)
6 月 11 日	14 人	塩の道を歩く「小谷村下里瀬～白馬村切久保」相沢亮平先生
7 月 17･18 日	24 人	山の子村キャンプと夜の山博動物園
8 月 27～29 日	13 人	夏の自然観察登山＆市民登山
9 月 25 日	13 人	秋の自然観察会「小遠見尾根で山岳スケッチ」若林晴男先生
11 月 13 日	26 人	博物館めぐり　大鹿村中央構造線博物館ほか
1 月 22 日	24 人	伝統技術を学ぶ「和紙を作る」

(3) 編集部

①「ゆきつばき」の発行

刊行物名	発行日	主 な 内 容
ゆきつばき 第 40 号	3 月 11 日	山岳博物館の 60 年と友の会、 友の会ひろば…行事参加者の感想 三角点…会員の投稿、雑感

①「ゆきつばき通信」の発行

号数	発行日	主 な 内 容
146 号	4 月 9 日	行事案内（小鳥の声を聞く会・塩の道を行く）報告（総会ほか）
147 号	6 月 20 日	行事案内（夏のキャンプ・市共催登山）報告（塩の道を行くほか）
148 号	8 月 10 日	行事案内（宮之浦岳登山・秋の自然観察会）報告（夏のキャンプ）
149 号	10 月 10 日	行事案内（博物館巡り・60 周年記念式典）報告（市民登山ほか）
150 号	12 月 25 日	行事案内（和紙を作る・冬の自然観察会）報告（年記念式典ほか）

(4) 喫茶「こまくさ」の営業

営業期間は平成 23 年 4 月 9 日(土)～平成 23 年 11 月 6 日(日)

1 階ホール隣での飲み物及び物品販売のサービス提供

(5) サークル活動

①烏帽子の会

山歩きのサークル。「連れてってもらう登山」ではなく「連れていく山行」、「次はどの山に行こう」という雰囲気で身近な山に登るサークル。平成 24 年 1 月末日、サークル会員は 23 名。

月　日	内　　容	参加	月　日	内　　容	参加
3 月 26 日(土)	乗鞍高原(松本市)	10 人	10 月 8 日(土)	白沢天狗(大町市)	10 人
5 月 21 日(土)	西山城址跡(大町市)	14 人	11 月 5 日(土)	権現山(大町市)	6 人
8 月 6 日(土)	御嶽山(木曽)	8 人	1 月 14 日(土)	五里ヶ峰(坂城町)	12 人

②ボランティアサークル

山岳博物館の活動への支援するグループとして山岳文化研究会、草花の一生研究会を中心に山岳博物館へのボランティア活動を進めている。平成 24 年 1 月末日、サークル会員は 48 名。

月　日	内　　容	参加
4 月 25 日(月)	中庭の環境整備、さくらそうの植え替え及び草取り	3 人
4 月 29 日(金)～5 月 5 日(木)	スタンプラリー、動物写生大会受付、館内案内	12 人
5 月 7 日(土)	小鳥の声を聞く会・トン汁準備	11 人
5 月 8 日(日)	小鳥の声を聞く会・トン汁作り・引率、サクラソウ運搬	12 人
5 月 13・20・21・22 日	信濃大町前サクラソウ灌水	4 人
5 月 29 日(日)	サクラソウ運搬	8 人
6 月　5 日(日)	慎太郎祭植物観察会補助	3 人
8 月 21 日(日)	2 階テラス整備、鉢植え、他	9 人
9 月 4 日 (土)	山岳資料館建設予定地から鉢に移動、友の会植物園作り	7 人
10 月 1・2 日	館内案内ガイド研修	13 人
10 月 4 日～11 月 27 日	JR びゅうばすツアー館内ガイド(述 24 日)	30 人
10 月 27・28 日(木・金)	企画展展示作業	4 人
11月 3 日(木)	企画展展示・創立 60 周年記念式典へ協力	8 人
11 月 26 日(土)	大北地域活動フォ―ラム(池田町)	1 人
12 月 10 日(土)	博物館夜のミュージアム会場設営・受付等	9 人

6. ライチョウ会議（担当：関悟志・清水博文）

(1) ライチョウ会議

平成 18 年 6 月 27 日より会議設置要綱を改正し、会議の活動目的を明確にした。構成員にはライチョウに関わる国・県の行政担当課をはじめ、富山雷鳥研究会・静岡ライチョウ研究会などライチョウ保護関係団体との意見交換の場として機能されている。また、大町市（市立大町山岳博物館）は昨年度に引き続き事務局を担当している。

(2) 第 12 回ライチョウ会議長野大会

ライチョウ会議長野大会は、国内研究者・行政関係者・環境ＮＧＯ等が集まり、ライチョウに関する調査・研究の充実と現状の把握、具体的な保護活動の検討などライチョウについての知見を深め、野生動植物の保護・自然環境保全の啓発を目的として開催された。平成 23 年 7 月 23～24 日の 2 日間、松本市Ｍウイングにおいて行政・研究者、一般市民等延べ 165 名が参加した。

「北アルプスの自然をどう守るのかーライチョウの保護が今なぜ必要なのか？－」を開催テーマに「各山岳集団の生息状況と課題」・「域外保全に向けた取り組みと今後」・「域内保全の取り組み」・「公開シンポジウム」の４部構成で行われた。2 日間にわたる大会では、各山岳でのライチョウの生息状況や、日本のライチョウの近似種であるスバールバルライチョウの各動物園での飼育状況などについて、最新の報告が行われた。また、ライチョウの生息環境を脅かすニホンジカなどへの対策や、絶滅を防ぐための人工的な保護のあり方などの課題が示され、出席者から活発な意見が交わされた。本大会の開催によって、ライチョウの生息域内保全と域外保全の現状と課題について把握し、連携の方向性を探ることに寄与したとともに、最新の情況を広く一般の方々に知っていただく機会となった。平

成 24 年に開催予定の第 13 回ライチョウ会議岐阜大会は、飛騨と乗鞍岳の自然を考える会が中心となり準備を進める。

7. ボランティア活動（担当：宮野典夫）

博物館友の会にボランティアサークルが組織されたので友の会関係は除く

月　日	内　容	個人･団体名	参加者
4 月 29 日(金)	博物館周辺清掃活動	天理教	約 90 人

Ⅴ　動植物飼育栽培繁殖事業

1．動物飼育繁殖（担当：清水博文・関悟志・小嶋健太・戸谷諭美・尾関美穂）

付属園では、希少野生動物繁殖事業、アルペン動物園友好提携事業（交換動物）、野生傷病鳥獣救護事業を実施し、それら事業にかかわり動物飼育繁殖事業を行っている。

現在、希少野生動物繁殖事業ではカモシカを飼育し、野生傷病鳥獣救護事業では大町市周辺で救護された野生動物を飼育している。なお、アルペン動物園友好提携事業での交換動物は現在飼育していない。

今後の課題として、前記の３つの事業を柱とする動物飼育繁殖事業について、これまでの事業全体を見直した上で、今後将来へ向けた方針と中長期の実施計画の検討を行う必要がある。

とくに付属園の今後のあり方については､博物館全体の中の事業としての位置づけ､施設の老朽化、ライチョウの生息域外保全（低地飼育）事業の凍結等多くの課題を抱えている。今後の事業展開の方向性に関しては、中長期的な視野に立ち計画を策定する予定である。

(1) 希少野生動物繁殖

当館ではニホンカモシカ、ライチョウ、イヌワシといった希少野生動物の繁殖に取り組んできている。現在、いずれの動物についても繁殖は行っていない。

①飼育動物の増減等

a．繁殖個体

なし

b．死亡個体（傷病鳥獣として救護した個体は除く）

なし

c．転出個体

現在、ブリーディングローンとして付属園内で繁殖したニホンカモシカを富山市ファミリーパーク（雌・平成 15 年～）と、埼玉県こども動物自然公園（雄・平成 21 年～）に各 1 個体貸出し中。

d．今後の計画

ニホンカモシカについては、新たな野外個体の導入が困難なことから、若い個体の確保を目的として保護収容個体を用い繁殖計画を行いたい。今後も友好提携を結んでいるアルペン動物園との交換動物をふまえて、国内動物園間でブリーディングローン等も行いたい。

②飼育動物（平成 24 年 3 月 31 日現在）　　（単位：個体）

種　名	雄	雌	不明	計	種　名	雄	雌	不明	計
ニホンカモシカ	2(2)	4(1)		6(3)	トビ			(8)	(8)
ホンドタヌキ	(1)	1		1(1)	フクロウ			(1)	(1)
ホンドギツネ	(1)			(1)	オオコノハズク			(1)	(1)
ハクビシン	(2)	(1)		(3)	チョウゲンボウ	(1)	(1)		(2)
					キジバト			(3)	(3)
					キジ	1(1)	2(1)		3(2)
					カルガモ			(1)	(1)
					マガモ	(1)			(1)
					モズ		(1)		(1)
計	2(6)	5(2)		7(8)	計	1(3)	2(3)	(14)	3(20)

・哺乳類　2（4）種・7（ 8）個体

・鳥類　　1（9）種・3（20）個体　　合計　3（13）種・10（28）個体

※（N）の数は救護動物の種数・個体数（なお、種数の計は救護動物以外に同種がいる場合は重複あり）

上記の他、身近な生き物を紹介するために、博物館ホールや付属園内においてイモリなどの両生類や爬虫類、スズムシなどの昆虫類を各生物の活動時期に合わせて水槽などを用いた展示を行った。

(2) アルペン動物園交換動物

友好提携を結んでいるオーストリア・インスブルック市のアルペン動物園から交換動物として贈られたヨーロッパ・チロル地方の野生動物（アルプスマーモット、ヨーロッパオオライチョウ、シベリアオオヤマネコ、シャモア）を昭和 60 年（1985）から平成 22 年（2011）まで飼育していたが、現在は飼育個体はない。

(3) 傷病鳥獣救護

長野県から平成 23 年度野生傷病鳥獣救護事業委託を受け、付属園では大北地域における野生傷病鳥獣救護施設として、ケガや病気の野生動物を収容している。なお、県からの同事業委託は平成９年度より毎年受託している。

①収容個体数

・哺乳類　2（4）種・4（8）個体

（ニホンカモシカ 3(3)・ホンドタヌキ(1)・ホンドギツネ(1) ハクビシン(3)・ムササビ 1)

・鳥類　7（9）種・11（20）個体

（トビ(8)・フクロウ 1(1)・オオコノハズク(1)・チョウゲンボウ(2)・キジバト 2(3)・キジ 1(2)・カルガモ 1(1)・マガモ(1)･モズ(1)、イワツバメ 3、ツバメ 2、ゴイサギ 1)

・合計　9（13）種・15（28）個体

（そのうち死亡個体 9・放鳥獣個体 6・他施設への転出個体 0・現在飼育中個体 0(27)）

※（N）の数は前年度からの継続収容個体数（なお、種数の計は継続個体に同種がいる場合は重複あり）

②所見

死亡個体のほとんどは収容時に処置を行っても手遅れか重症の個体であり、救護収容の当日または数日後には死亡している。こうした傾向は過去の実績からも顕著であり、早期での獣医師による診療処置が不可欠と考えられる。また、半年以上収容した個体は疾病が完治しても餌付いてしまうことが多く、人工哺育した個体と同様、野外に復帰させることが困難となり、長期救護収容個体となる傾向がみられる。

2. 植物栽培繁殖（担当：千葉悟志）

(1) 栽培植物

①栽培植物の増減

減：オオシラヒゲソウ

②栽培植物

コマクサ、フクジュソウ、サクラソウ、ササユリ、ビッチュウフウロ、アズミノヘラオモダカ、イヤリトリカブト、コオニユリ、カキツバタ、クサレダマ、ミズオトギリ、エゾミソハギ、トキソウ・ミズバショウ、リュウキンカ、サワオグルマ、サワギキョウ、アカバナ

③ 概要

年間を通じて、山岳博物館友の会ボランティアによる植物の植え替え作業および除草を適宜行なって頂いた。

5 月 8 日～29 日まで、サクラソウの栽培展示を JR 信濃大町駅周辺で行い、設置・撤収、輸送はボランティアの方にお手伝いいただいた。

企画展「くさばなの一生」で栽培した湿原植物をボランティアの方の協力を得て、講堂正面の一角に湿地植物園（仮）として造園した。

Ⅵ　その他

1．各種委員などの委嘱

大町博物館連絡会・会長（宮野典夫）
北アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会・参与（宮野典夫）
高山植物等保護対策協議会中信地区・理事・監査（宮野典夫）
大町市観光協会・理事（宮野典夫）
長野県博物館協議会・監査（宮野典夫）
長野県科学振興会大町支部・理事（千葉悟志）
栂池自然園地域保全委員会委員・委員長（宮野典夫）
防災計画（小坂共栄）
市民参加型モニタリング手法検討委員（千葉悟志）
ライチョウ会議構成員（宮野典夫）
慎太郎祭実行委員（宮野典夫）
桜まつり実行委員（宮野典夫）
北アルプス雪形まつり実行委員（宮野典夫・清水隆寿）

2．アルペン動物園との友好提携協定の締結

昭和 60 年 2 月 18 日、オーストリア・インスブルック市のアルペン動物園と当館は、次のような目的による友好提携協定について締結をした。
「同じような自然環境に囲まれたインスブルックと大町両市の市長は、その締結を大いに歓迎し、また両市民は文化をはじめさまざまな分野において、緊密な交流をはかり、それを通じて相互信頼と友好を深め、将来にわたって、インスブルック市と大町市の繁栄と幸福のために貢献する。」（同協定書より抜粋）

3．信州大学山岳科学総合研究所との研究協力協定の締結

平成 17 年 7 月 5 日、信州大学山岳科学総合研究所と当館は、次のような目的による研究協力協定について締結をした。
「山岳および大町市とその周辺地方の民俗、歴史などの資料を収集、保管、展示し一般の観覧に供し、本邦における山岳文化などの普及並びに調査研究を行う市立大町山岳博物館と、信州の自然と社会をフィールドとして、山岳及びそれに連なる里山における自然と人間の相互関係にかかわる諸問題の解決を目指した研究を行い、新しい学問領域「山岳科学」を創造しようとする信州大学山岳科学総合研究所は、相互の連携の意義を深く認識し、自然と人間の共生の諸課題探求に力をあわせて貢献するため、ここに研究協力協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

Ⅶ　運営

1．組織および職員構成

(1) 組織

大町市教育委員会
- 教育長 ― 教育次長
  - 顧問
  - 山岳博物館協議会
  - 館長 ― 副館長
    - 庶務
    - 学芸員
    - 嘱託職員（専門員）
    - 臨時職員（庶務・飼育員・資料整理

(2) 顧問

千葉彬司

(3) 協議会委員

学校教育関係者：山浦和彦

社会教育関係者：宮澤洋介、松原繁、横川仁、鈴木啓助

学識経験者：今滝一登美、森一弘、湯澤将憲、佐藤悟、高田正樹、宮崎亮、藤沢秀

(4) 展示改修専門委員

荒井今朝一、西本武志、布川欣一、福江充、菊地俊朗、笹本正治、長沢武、松原繁、荒井和比古、相原慎一

(5) 職員

①配置

館　長　宮野典夫

副館長　清水博文（庶務兼務）

学芸員　清水隆寿、関悟志（人文科学系）　千葉悟志（自然科学系）

専門員　小坂共栄（自然科学系）

臨時職員　細野信子（資料整理、庶務）　小嶋健太、戸谷諭美、尾関美穂（動物飼育）
小松泰大、村越小百合、加賀美子、北澤穂野香（資料整理）

②人事異動

昇　格　副館長・清水博文（平成 23 年 4 月 1 日）

転　出　副館長・降旗孝浩（平成 23 年 3 月 31 日）

転　入　学芸員・関悟志（平成 23 年 4 月 1 日）

新　規　動物飼育（臨時職員　尾関美穂（平成 23 年 4 月 1 日）
資料整理、庶務（臨時職員）　細野信子（平成 23 年 4 月 26 日）
資料整理（臨時職員）　小松泰大（平成 23 年 10 月 20 日）
村越小百合（平成 23 年 10 月 20 日）
加賀美子（平成 23 年 10 月 20 日）
北澤穂野香（平成 23 年 10 月 20 日）

退　職　資料整理、庶務（臨時職員）　細野信子（平成 24 年 3 月 30 日）
資料整理（臨時職員）　小松泰大（平成 24 年 3 月 30 日）
村越小百合（平成 24 年 3 月 30 日）
加賀美子（平成 24 年 3 月 30 日）
北澤穂野香（平成 24 年 3 月 30 日）

2．協議会

(1) 第 1 回協議会

①**日時**：平成 23 年 11 月 24 日（木）10：00～11：45

②**場所**：山岳博物館　講堂

出席者：山浦和彦、宮澤洋介、松原繁、鈴木啓助、今滝一登美、森一弘、高田正樹、宮崎亮、藤沢秀

③**内容**：・協議会会長、副会長の選出

会長に藤沢秀氏、副会長に松原繁氏

・報告

平成 23 年度の事業報告

・協議

平成 24 年度からの山岳博物館の基本理念・基本方針及び平成 24 年度事業計画について

大町市第 4 次総合計画後期基本計画（素案）について

展示改修事業について

3．入館者状況

(1) 過去の入館者状況　（単位：人）

年度	有料入館者							無料入館者				合計
	個人			団体			小計	一般減免	市内		小計	
	大人	高校	小中生	大人	高校	小中生			65 歳以上	小中生		
S26	291		100	21		77	489					489
27	2,425		1,022	186		1,514	5,147					5,147
28	8,922		2,229	725		1,216	13,092					13,092
29	7,779		1,831	625		1,189	11,424					11,424
30	6,831		1,664	1,445		945	10,885					10,885
31	2,148		888	1,036		858	4,930					4,930
32	1,934		658	826		1,880	5,298					5,298
33	2,979		1,032	1,469		2,417	7,897					7,897
34	2,972		626	1,727		1,788	7,113					7,113
35	3,635		878	1,943		2,143	8,599					8,599
36	4,181		1,329	2,132		2,521	10,163					10,163
37	5,313		1,633	4,549		2,748	14,243					14,243
38	6,394		1,854	4,727		2,918	15,893					15,893
39	10,464		1,658	12,600		1,520	26,242					26,242
40	14,214		1,696	8,050		1,600	25,560					25,560
41	10,399		1,711	13,070		1,500	26,680					26,680
42	12,891		1,649	8,301		3,059	25,900					25,900
43	18,458		2,071	17,769		3,240	41,538					41,538
44	16,273		2,100	10,845		3,749	32,967					32,967
45	13,405		1,941	11,623		3,960	30,929					30,929
46	18,414		3,001	14,718		3,193	39,326					39,326
47	17,500		3,025	13,268		6,877	40,670					40,670
48	25,809		4,178	22,612		5,774	58,373					58,373
49	28,702		4,277	23,432		5,843	62,254					62,254
50	32,345		4,896	23,616		6,835	67,692					67,692
51	32,111		5,142	25,150		8,200	70,603					70,603
52	26,155		4,311	18,907		5,327	54,700					54,700
53	26,346		4,158	24,903		8,722	64,129					64,129
54	27,769		4,485	25,089		6,600	63,943					63,943
55	25,743		4,414	19,909		6,972	57,038					57,038

年度	有料入館者							無料入館者				合計
	個人			団体			小計	一般減免	市内		小計	
	大人	高校	小中生	大人	高校	小中生			65歳以上	小中生		
56	31,697		7,558	16,182		9,695	65,132					65,132
57	31,894	809	6,400	10,391	5,827	6,929	62,250	7,965			7,965	70,215
58	33,590	988	6,632	15,885	7,992	12,303	77,390	9,026			9,026	86,416
59	30,335	816	5,905	12,969	9,172	15,070	74,267	8,117			8,117	82,384
60	36,686	1,142	8,025	22,782	8,559	15,902	93,096	6,770			6,770	99,866
61	34,797	1,086	6,109	16,001	8,107	16,069	82,169	4,509			4,509	86,678
62	33,132	918	5,581	18,751	7,065	17,186	82,633	3,605			3,605	86,238
63	36,116	841	5,932	14,947	6,085	14,735	78,656	6,269			6,269	84,925
H1	41,018	1,199	6,450	13,191	4,650	10,527	77,035	3,709			3,709	80,744
2	43,444	1,108	6,752	16,486	3,045	7,119	77,954	4,844			4,844	82,798
3	47,004	1,276	7,313	13,817	4,212	8,278	81,900	4,577			4,577	86,477
4	42,197	725	5,719	13,068	1,687	7,015	70,411	3,413			3,413	73,824
5	45,182	809	5,807	12,249	2,807	5,325	72,179	3,587			3,587	75,766
6	38,354	933	4,809	10,561	1,932	4,974	61,563	3,376			3,376	64,939
7	37,356	981	4,650	9,493	1,840	4,164	58,484	5,376			5,376	63,860
8	36,002	869	4,189	6,601	1,905	2,244	51,810	2,174			2,174	53,984
9	31,119	626	3,417	7,626	1,245	2,100	46,133	1,429			1,429	47,562
10	28,219	637	3,105	6,023	764	2,006	40,754	1,686			1,686	42,440
11	24,220	482	2,200	4,766	561	1,183	33,412	1,206			1,206	34,618
12	23,082	501	2,273	5,344	648	1,024	32,872	1,187			1,187	34,059
13	24,064	439	2,163	3,389	671	1,577	32,303	1,497	387	826	2,710	35,013
14	20,527	472	1,744	2,518	675	808	26,744	1,013	191	451	1,655	28,399
15	19,693	535	2,152	2,184	785	1,082	26,431	990	285	616	1,891	28,322
16	14,664	376	1,073	2,875	602	644	20,234	604	51	662	1,317	21,551
17	12,065	213	630	3,138	692	928	17,666	1011	97	491	1,599	19,265
18	14,056	135	996	3,120	545	1,836	20,688	1,825	162	688	2,675	23,363
19	10,991	120	742	2,401	407	1,037	15,698	1,087	94	693	1,874	17,572
20	11,532	130	803	2,766	381	578	16,190	1,518	188	619	2,325	18,515
21	11,269	100	704	3,055	61	1,098	16,287	1,164	143	348	1,655	17,942
22	9,578	103	594	2,665	466	467	13,873	955	116	203	1,274	15,147
23	12,363	127	855	2,963	328	1,396	18,032	2,032	146	819	2,988	21,020
計	1,279,048	19,496	191,739	593,480	83,716	280,484	2,447,963	96,512	1,860	6,416	104,788	2,552,751

(2) 平成23年度の入館者状況　　（単位：人）

月	有料入館者							無料入館者			小計	合計
	個人			団体			小計	一般減免	市内			
	大人	高校	小中生	大人	高校	小中生			65歳以上	小中生		
4	977	6	50	98	0	3	1,134	79	17	43	139	1,273
5	1,954	23	123	527	1	9	2,637	211	22	129	362	2,999
6	788	3	47	306	0	286	1,430	109	18	161	288	1,718
7	1,326	15	112	367	321	485	2,626	410	5	101	516	3,142
8	2,566	64	385	602	6	598	4,221	281	11	121	413	4,634
9	1,202	7	33	192	0	3	1,437	127	8	40	175	1,612
10	1,527	0	38	523	0	4	2,092	196	33	26	255	2,347

月	有料入館者							無料入館者			小計	合計
	団体			小計					市内			
	大人	高校	小中生	大人	高校	小中生			65歳以上	小中生		
11	1,060	2	11	195	0	1	1,269	196	9	86	291	1,560
12	219	0	14	0	0	0	233	200	3	5	208	441
1	141	0	1	34	0	3	176	13	0	0	13	192
2	187	2	3	31	0	1	224	43	1	104	148	372
3	416	5	38	88	0	3	550	158	19	3	180	730
計	12,363	127	855	2,963	328	1,396	18,032	2.023	146	819	2,988	21,020
前年	9,578	103	594	2,665	466	467	13,873	955	116	203	1,274	15,147
前年度比	129%	123%	144%	111%	70%	299%	130%	212%	126%	403%	235%	139%

(3) 平成23年度の開館日数

319日

4. 平成23年度予算・決算

(1) 歳入 （単位：円）

項　目	観覧料	望遠鏡使用料	国庫補助金	県補助金	県委託金	寄付金
当初予算	6,325,000	80,000	1,235,000	2,234,000	200,000	13,000,000
決算額	6,487,950	79,000	1,235,000	2,234,000	214,000	13,000,000
	162,950	△1,000	0	0	14,000	0
項　目	起債	基金繰入金	雑　入			計
当初予算	19,900,000	720,000	732,000			44,426,000
決算額	19,700,000	720,000	1,151,350			44,821,300
	△200,000	0	419,350			395,300

(2) 歳出 （単位：円）

項目	一般職員人件費	管理運営一般経費	教育普及事業	調査研究事業	資料収集保管事業
当初予算	38,412,000	14,947,000	4,983,000	308,000	687,000
決算額	37,422,487	16,147,670	4,511,689	249,278	676,035
	989,513	△1,200,670	471,311	58,722	10,965
項目	動植物飼育栽培事業	耐震事業	創立60周年記念事業	山岳資料館建設事業	繰越明許費教育普及事業
当初予算	9,003,000	4,100,000	12,248,000	33,071,000	9,009,000
決算額	8,571,536	3,780,000	3,046,358	32,787,000	8,794,323
	431,464	320,000	9,201,642	284,000	214,677
項目	繰越明許費創立60周年記念事業	繰越明許費管理運営一般経費			計
当初予算	2,000,000	2,300,000			131,068,000
決算額	2,000,000	1,302,000			119,288,376
	0	998,000			11,779,624

Ⅷ　関係条例・規則等

1．市立大町山岳博物館条例

昭和 57 年 3 月 29 日
条例第 12 号

改正　昭和 61 年 3 月 24 日条例第 8 号　　平成元年 3 月 24 日条例第 7 号
平成 4 年 3 月 31 日条例第 8 号　　平成 5 年 12 月 24 日条例第 32 号
平成 12 年 3 月 29 日条例第 13 号　　平成 13 年 3 月 27 日条例第 13 号

市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）の全部を改正する。

（目的）
第 1 条　この条例は、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号。以下「法」という）第 18 条及び地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の 2 第 1 項の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という）の設置及び管理運営に関し、必要な事項を定めることを目的と　する。

（設置）
第 2 条　山岳に関する資料並びにこの地方における民俗、歴史その他の資料を収集して、保管又は展示し、一般の観覧に供し、本邦における山岳文化等の普及並びにこれらの資料の調査　研究を行うため博物館を設置する。

（名称及び位置）
第 3 条　博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。
市立大町山岳博物館　大町市大町 8056 番地 1

（職員）
第 4 条　法第 4 条の規定による館長、学芸員のほか必要な職員を置く。
2　必要に応じ顧問及び嘱託員を置くことができる。

（観覧料）
第 5 条　博物館を観覧しようとする者は、別表第 1 に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、次に掲げる者は、この限りでない。
(1) 6 歳未満の者
(2) 市内の小学校及び中学校に在学する児童又は生徒
(3) 市内に住所を有する満 65 歳以上の者

（使用料）
第 6 条　博物館の設備使用料は、別表第 2 に定めるとおりとする。

（観覧料の減免）
第 7 条　大町市教育委員会（以下「教育委員会」という）は、特別な理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる。

（資料の特別利用）
第 8 条　博物館資料を学術研究等のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

（賠償責任）
第 9 条　故意又は過失により、博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又は損害を賠償しなければならない。

（博物館協議会）
第 10 条　法第 22 条の規定により、市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という）を設置する。
2　協議会の委員（以下「委員」という）の数は、15 人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。
(1) 学校教育及び社会教育の関係者
(2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
(3) 学識経験のある者
(4) 公募による市民等

3　委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委任）

第11条　この条例に定めるもののほか必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則

1　この条例は、昭和57年6月5日から施行する。

2　この条例施行の際、現に市立大町山岳博物館条例（昭和29年条例第18号）第5条の規定により委員として委嘱された者は、この条例第10条の規定により委嘱されたものとみなし、任期は、同条第3項の規定にかかわらず、昭和58年3月31日までとする。

附　則（昭和61年3月24日条例第8号）

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附　則（平成元年3月24日条例第7号）

この条例は、平成元年4月1日から施行する。

附　則（平成4年3月31日条例第8号）

この条例は、平成4年4月1日から施行する。

附　則（平成5年12月24日条例第32号）

この条例は、平成6年4月1日から施行する。

附　則（平成12年3月29月条例第13号）

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附　則（平成13年3月27日条例第13号）

この条例は、平成13年4月1日から施行する。

附　則（平成17年12月6日条例第30号）

この条例は、平成18年1月1日から施行する。

附　則（平成24年3月26日条例第3号）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

別表第1（第5条関係）

種別	区分	単位	観覧料
一般	大人	1人	400円
	高校生	〃	300
	小人	〃	200
団体 （30人以上の場合をいう）	大人	〃	350
	高校生	〃	250
	小人	〃	150

備考　特別の資料を展示する場合は、1,000 円の範囲内においてその都度教育委員会が定める額とする。

別表第2（第6条関係）

望遠鏡使用料	1回　　100円

2. 市立大町山岳博物館規則

昭和 57 年 3 月 30 日
教育委員会規則第 3 号

改正　平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号　平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号
平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号

（趣旨）
第 1 条　地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 33 条第 1 項及び市立大町山岳博物館条例（昭和 57 年条例第 12 号。以下「条例」という）第 11 条の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という）の管理運営並びに市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。
（職務）
第 2 条　館長は、上司の命を受け、館を統括し、所属職員を指揮監督する。
2　学芸員は、館長の命を受け、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 4 条第 4 項に規定する職務を遂行する。
3　その他の職員は、館長の命を受け、職務を遂行する。
4　館長を補佐するため、副館長を置くことができる。副館長は、係長相当職をもって充てる。
5　嘱託員は、学術に関する職務に従事する。
（休館日）
第 3 条　博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、臨時に開館又は休館することができる。
(1)　毎週月曜日
(2)　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日の翌日（この日が月曜日に当たるときは、その翌日）
(3)　12 月 29 日から翌年 1 月 3 日までの日（前号に掲げる日を除く）
（開館時間）
第 4 条　博物館の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めたときは、これを変更することができる。
（観覧券の交付）
第 5 条　条例第 5 条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券（様式第 1 号）に領収印を押印し、交付するものとする。
（観覧料の減免）
第 6 条　条例第 7 条の規定による観覧料の減免を受けようとする者は、博物館観覧料減免申請書（様式第 2 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。
（博物館資料の利用等）
第 7 条　条例第 8 条の規定により博物館の資料を利用しようとする者は、市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書（様式第 3 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。
2　前項の規定による資料の利用期間は、30 日以内とする。ただし、教育委員会が必要と認めた場合は、延長することができる。
（入館制限等）
第 8 条　教育委員会は、次の一に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。
(1)　公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
(2)　管理上支障があると認められるとき。
(3)　その他教育委員会が必要と認めるとき。
（資料の寄贈及び寄託）
第 9 条　博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。資料を寄贈及び寄託しようとする者は、博物館資料寄贈・寄託書（様式第 4 号）を教育委員会に提出するものとする。
2　寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。
3　博物館は、寄託を受けた博物館資料が災害その他不可抗力によって滅失又は損傷した場合は、損害

賠償の責を負わない。
4　寄贈又は寄託を受けた博物館資料は、一般の資料と同一の取扱いをするものとする。
（資料等の滅失・損傷）
第10条　館長は、博物館の資料、施設等が滅失又は損傷したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。
（協議会の組織）
第11条　協議会に、委員の互選による会長及び副会長各１名を置く。
2　会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
3　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
（協議会の会議）
第12条　協議会の会議は、館長の諮問により会長が招集する。
2　協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
3　会議の議決は、出席委員の過半数の賛成がなければならない。

附　則
1　この規則は、昭和57年6月5日から施行する。
2　市立大町山岳博物館規程（昭和29年教育委員会規則第9号）及び市立大町山岳博物館協議会規程（昭和29年山岳博物館規程第1号）は、廃止する。
附　則（平成元年3月31日教委規則第3号）
この規則は、平成元年4月1日から施行する。
附　則（平成9年12月26日教委規則第3号）
この規則は、平成10年1月1日から施行する。
附　則（平成12年3月30日教委規則第9号）
この規則は、平成12年4月1日から施行する。
様式（省略）

3．大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱

平成 17 年 7 月 7 日
教育委員会告示第 8 号

（趣旨）
第 1　大町市におけるライチョウ保護事業の計画を策定するため、大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。
（所掌事務）
第 2　委員会は、ライチョウの保護事業に関する計画の策定及びその他計画策定上必要な事項を検討するものとする。
（組織）
第 3　委員会は、委員 10 人以内で組織し、学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。
（任期）
第 4　委員の任期は、ライチョウ保護事業計画の策定業務が終了するまでとする。
第 5　委員会に委員長及び副委員長各 1 人を置き、委員が互選する。
２　委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
３　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
（オブザーバー）
第 6　委員会にオブザーバーを置くことができる。
２　オブザーバーは、ライチョウの保護事業に関し、必要な意見を述べることができる。
（会議）
第 7　委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。
２　委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。
（事務局）
第 8　委員会の事務局は、市立大町山岳博物館に置く。
（補則）
第 9　この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附　則

この告示は、告示の日から施行する。

Ⅸ　施設

1．敷地面積

41,575.69 ㎡

2．本館建物

(1) 構造：鉄筋コンクリート造　地上3階 地下1階
(2) 竣工：昭和57年5月31日竣工
(3) 面積：建築面積　　1,280.9 ㎡
　　延べ床面積 2,207.0 ㎡
(4) 床面積表　　（単位：㎡）

1階　1244.9					
名　称		面積	名　称		面積
1	ホール	205.5	13	倉　庫	8.8
2	喫　茶	74.2	14	E.V	5.1
3	講　堂	110.2	15	給湯室	3.0
4	便　所	8.1	16	倉　庫	3.5
5	映写室	5.4	17	EV機械室	6.0
6	準備室	9.1	18	特別展示室	70.4
7	事務室	51.0	19	第1展示室	290.0
8	館長室	18.6	20	収蔵庫	104.0
9	宿直室	32.5	21	荷解作業室	41.3
10	便　所	29.0	22	ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室	16.4
11	書　庫	16.7	23	燻蒸室	12.3
12	更衣室	14.6	廊下、階段等		109.2

2階　686.1					
名　称		面積	名　称		面積
24	ﾚｸﾁｬｰｽﾍﾟｰｽ	113.6	28	収蔵庫	42.1
			29	便　所	18.2
25	研究室	69.6	30	第2展示室	290.0
26	図書室	34.8	31	ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室	14.9
27	倉　庫	16.0	廊下、階段等		86.9

3階　116.8					
名　称		面積	名　称		面積
32	展望室	94.6	階段		22.1

地階　159.2					
名　称		面積	名　称		面積
33	機械室	118.8	階段		17.4
34	車　庫	23.0			

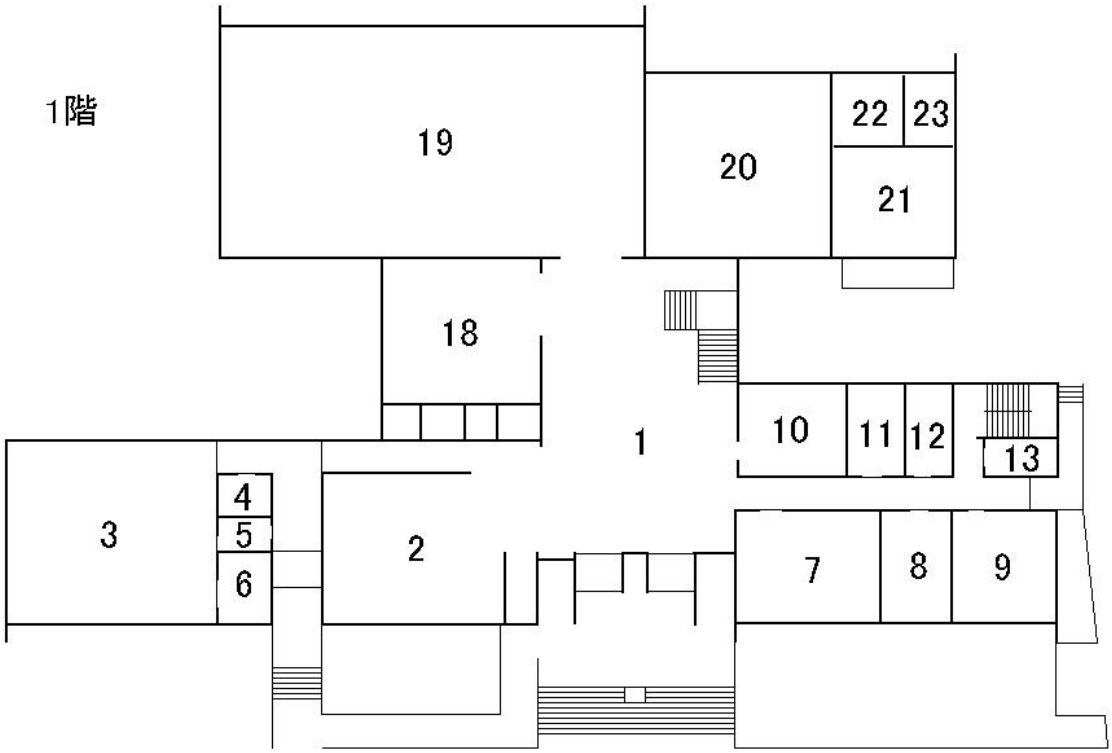
3．付属施設

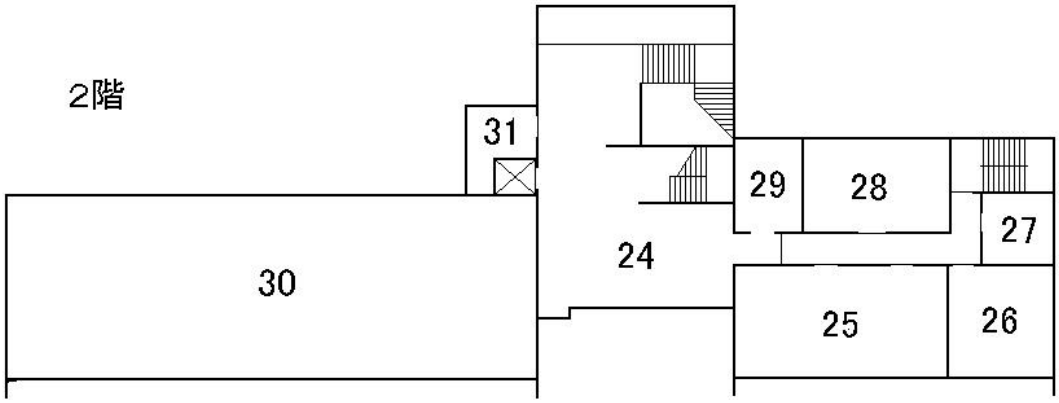
(1) 付属園（本館隣）の建物（建設年度順）

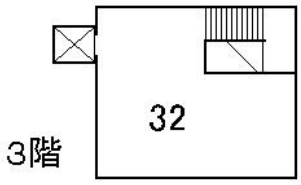
施設名および面積（築年度）		施設名および面積（築年度）		施設名および面積（築年度）		施設名および面積（築年度）	
A-1	33.44（S42,43）	B-3	22.62（S53）	B-6	18.99(S61)	B-9	34.83(H3,4)
A-3	15.24（S48）	B-4	39.63（S54,55）	B-7	46.5(S61)	B-10	5.2（H3）
A-5	33.44（S49）	B-1	28.20（S38→S55 移設）	B-8	26.92(H1)	B-11	67.65(H4)
A-6	42.85（S49）	B-2	13.93（S38→S55 移設）	B-6	18.99(S61)	B-12	44.88(H7)
A-7	20.26（S51）	A-4	16.20（S48→S55 移設）	B-7	46.5(S61)	A-10	52.00(H21)
A-8	11.55（S53）	A-9	15.70(S57)	B-8	26.92(H1)		

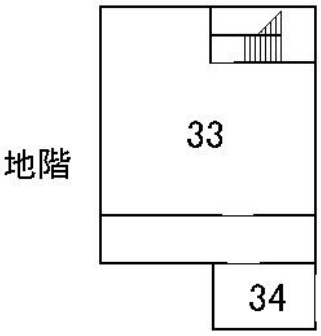
(2) 山岳図書資料館（敷地内）
　構造：鉄骨造　地上2階
　竣工：平成24年3月2日竣工
　面積：建築面積　59.96 ㎡
　　延床面積117.45 ㎡（1階58.725 ㎡、2階58.725 ㎡）
　開館：平成24年4月20日（予定）

4. 本館平面図


1階
19
20
22
23
21
18
1
10
11
12
13
3
4
5
6
2
7
8
9


2階
31
29
28
27
30
24
25
26


32
3階


地階
33
34

5. 付属の建物図

X　利用案内（平成 24 年 3 月 31 日現在）

1. 開館時間　午前 9 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
2. 休館日　毎週月曜日、国民の祝日・振替休日の翌日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
   ※月曜日が祝日・休日の場合は開館し、翌日休館　7 月・8 月は無休
3. 交通　公共機関　JR 信濃大町駅から　タクシーで 5 分、歩いて 25 分
   車　長野自動車道安曇野 IC から 40 分
   （北アルプスパノラマロード経由 白馬方面へ 28 km）
   ※博物館前に無料駐車場（普通車 30 台・大型バス 5 台収容）
4. 観覧料

区　分	大　人	高校生	小・中学生
個　人	400 円	300 円	200 円
団　体（30 名様以上）	350 円	250 円	150 円

5. ユニバーサルデザイン
   入口スロープ、車イス用トイレ、車イス対応エレベーター、貸出用車イス・ベビーカー、ベビーベッド、点訳版パンフレット、アシスタントドッグ同伴可能
6. 所在地および連絡先
   〒398-0002　長野県大町市大町 8056－1
   （標高：766m、経緯：北緯 36 度 30 分、東経 137 度 52 分）
   TEL：0261-22-0211／FAX：0261-21-2133
   E-mail：sanpaku@city.omachi.nagano.jp
   URL：http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

市立大町山岳博物館　平成 23 年度　年報

発　行 日　　平成 25 年 3 月 15 日
編集・発行　　市立大町山岳博物館
〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
TEL:0261-22-0211 / FAX:0261-21-2133
印刷・製本　　ホクシン印刷
〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1
TEL:0261-22-3030 / FAX:0261-23-2010

この印刷物は再生紙を使用し、石油溶剤の代わりに大豆油を使用した大豆インキで印刷しています。